

平成 26 年度

## 事業報告について

平成 27 年 6 月

公益財団法人 大阪市博物館協会

# 平成26年度事業報告について

## 1 はじめに

平成26年度、大阪市博物館協会は設立5年目、公益財団法人としては3年目であった。また、大阪市から受託している博物館・美術館5館の管理運営は、平成22年度から平成25年度までの4年間に続き、26年度のみ1年間の指定管理期間を終えた。

当協会は平成22年度の設立以降、大阪歴史博物館、大阪市立自然史博物館、大阪市立美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、大阪城天守閣の5館の指定管理者制度における管理代行を行っている。そして、埋蔵文化財発掘調査事業を実施している大阪文化財研究所も含めて各種の事業を実施しているが、その前提となる公益財団法人への移行を認定された際の「協会事業の位置付け」と「協会経営計画」を以下に記載する。

### 1. 協会事業の位置付け

協会事業を「公益目的事業」「収益事業等」として位置づけ、平成24年4月から公益財団法人として事業を実施している。

#### (1) 公益目的事業

この事業については次の9事業で構成されており、隣接する分野の事業を相互に連携し総合力を発揮することがより効果的であることが位置付けられている。

- ① 埋蔵文化財の発掘調査と保存科学分析事業（受託事業）
- ② 文化財や博物館関係資料の調査研究事業（自主事業）
- ③ 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用事業（自主事業）
- ④ 文化財等資料を活用した展示・公開事業（自主事業）
- ⑤ 講座等による教育普及や人材育成事業（自主事業）
- ⑥ 体験活動事業（自主事業）
- ⑦ その他活動（自主事業）
- ⑧ 文化財関連施設管理・活用事業（受託事業）
- ⑨ 大阪市立博物館・美術館管理運営事業（指定管理による受託事業）

#### (2) 収益事業等

##### ① 収益事業

施設の一部を売店・食堂等として使用することで、来館者サービスの向上やその収益を公益目的事業に充てることを目的とする事業

##### ② その他の事業（相互扶助等事業）

友の会会員に対して行う講演会等を通じて、友の会活動の推進や会員の美術・東洋陶磁に関する公益目的事業に対する理解を深めることを目的とする事業

## 2. 協会の経営計画

経営計画は平成23年9月に策定され、「団体のビジョン」「経営目標」等が定められている。

#### (1) 団体のビジョン

協会の設置目的を実現するため、次の4つの基本方針の下で活動することとしている。

- ① 大阪市の博物館・美術館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力を創出する。
- ② 都市大阪にふさわしい、さまざまな利用者ニーズに応えられる博物館をめざす。

- ③ 大阪市の博物館・美術館の相互連携によって総合力を發揮し、都市大阪の魅力の発信拠点をめざす。
- ④ 30年を越える遺跡の考古学的調査を活かした確かな知識と技術にもとづき、文化財の幅広く総合的な調査研究を行い、その成果を広く発信する。

## (2) 経営目標

博物館5施設の指定管理者として、上記のビジョンに沿って、平成23年度から平成27年度までの5カ年の目標を5点掲げて活動することとしている。

### 目標1 指定管理5施設全体の常設展入館者数の増加

〔27年度目標〕2,160千人 〔26年度実績〕2,446千人

### 目標2 各館の事業成果や広く国内外の作品を紹介する特別展の充実

〔目標〕年間で15本程度 〔26年度実績〕17本

### 目標3 講演会や体験学習等を通じた資料や研究成果の積極的公開・活用

〔目標〕年間400回・参加7万人 〔26年度実績〕574回、90,312人

### 目標4 指定管理5施設全体での学校利用の促進

〔27年度目標〕延べ3,300校 〔26年度実績〕延べ2,421校

### 目標5 当協会所管の各館並びに(公財)大阪科学振興協会・大阪市立大学など関係機関との連携事業の展開 〔目標〕年間80件 〔26年度実績〕228件

#### 【大阪市博物館協会 基本方針】

1. 各館の実績・伝統を継承するとともに、新たな魅力を創出します。
2. 都市大阪にふさわしい、さまざまな来館者に応えられる博物館をめざします。
3. 相互の連携によって総合力を發揮し、都市大阪の魅力の発信拠点をめざします。
4. 点検・評価を行い、ニーズに則した事業の実施と効率的な運営をめざします。

## 2 総務部の取り組み

総務部では、経営計画を受けて協会各館・研究所が相互に連携した事業、外部の関係機関と連携した事業、協会としての共同広報事業などを実施しており、平成26年度は新たに、大阪歴史博物館を会場として「教員のための博物館の日」の開催や、広報の新展開として新たな博物館・美術館ポータルサイトの開設やSNSの活用などに取り組んだ。また、9種のポストカード「OSAKA MUSEUMS CARD COLLECTION」を初めて企画・作成し、広報ツールとしての活用を図った。

### 1. 「大坂の陣400年天下一祭」への参画

平成26・27年の2年間、府市や府内の市町村において「大坂の陣400年天下一祭」が開催され、協会としても「都市大阪の魅力を国内外に強力に発信する機会として積極的に参画し、博物館施設連携による共同キャンペーン「ミュージアムウィークス」(10月1日～11月3日)や、ミュージアム連続講座2014(1月30日・2月6日・2月13日)について、「大坂の陣400年」をテーマとして実施した。大阪文化財研究所では、「なにわの宮リレーウォーク」第4弾を「大坂の陣の戦跡をめぐる」として開催した。

また各館の展観事業として、大阪城天守閣では、大坂の陣400年記念特別展「浪人たちの大坂の陣」(10月11日～11月24日)、同「豊臣と徳川」(平成27年3月21日～5月10日)、夏の展示「戦争と平和」(7月18日～10月8日)、テーマ展「乱世からの手紙—大阪城天守閣収蔵古文書選一」(平成26年3月21日～5月6日)、大阪歴史博物館 特別展「大阪遺産 難波宮—遺跡を読み解くキーワードー」(6月21日～8月18日)、特集展示「新発見！なにわの考古学2014」(9月3日～11月3日)を開催し参加した。

27年度においても、引き続き協会として積極的に参画していく。

### 2. 大学・学校等との連携

大学との連携については、引き続き大阪市立大学との包括連携協定に基づき、学芸員養成課程の博物館学3講座(前期：博物館経営論・博物館保存論、後期：博物館展示論)への学芸員の出講をはじめ、博学連携講座「上町台地2000年—土地に刻まれた歴史を探る」(市立大学文化交流センター、11月～12月、4回)、ミュージアム連続講座「大坂の陣とその時代」(難波市民学習センター、1月～2月、3回)を共催し、学芸員の派遣、大学教員の招聘をおこなった。また市立大学の競争的資金により、難波宮と大化改新に関する共同研究に大学教員と学芸員が取り組み、昨年度好評であった学術シンポジウムの第二弾となる「難波宮と大化改新Ⅱ」(市立大学、2月22日)として、研究成果を公表した。

キャンパスメンバーズ制度については、25年度から継続して4校の参加を得たが、新たな参加校の獲得はできなかった。新規参加校の開拓、利用率アップの取組み等が今後の課題となっている。

小中学校との連携については、平成25年度末に作成した新たなリーフレット「授業に役立つミュージアム活用ガイド」を活用して主に市内の校園長会や教育研究会との連携を深め、積極的に学校団体利用の促進を図った。平成26年度末には、この「ミュージアム活用ガイド」

の増補版を作成し、引き続いて取り組みを進めた。平成 26 年度の学校団体利用数は市外からの団体を中心に、平成 25 年度よりもさらに減少した。これは、大阪城天守閣の総来館者数の増加による混雑回避をする学校の増加、大阪歴史博物館とセットで訪れることが多いピース 大阪の休館に伴い、計画を変更した学校が多かったことが原因と考えられる。今後は、市内だけでなく、来館が減少している市外の学校への広報活動が必要と考えられる。

平成 26 年度は、新たに教育委員会や教育センターとの連携事業として、「教員のための博物館の日」(8 月 7 日) を大阪歴史博物館で実施した。これは「小中学校の博物館利用の促進」と「学校教育の支援」を推進するため、各館・所の取り組みを紹介し、夏休み期間中に教員研修の一環として開催したものである。学校との連携を進めるためには、継続性が必要であることから、平成 27 年度も実施する予定である。市立美術館と連携した取り組みとしては、特別展「こども展」の開催期間中に小学校鑑賞学習を実施した。(9~10 月、4 校)

博物館施設等の連携としては、大阪歴史博物館でテーマ展示「『はかる』の歴史」(常設展示内、1 月 28 日~3 月 23 日) を開催し、同時期に大阪市立中央図書館では図書展示「江戸時代の天文学展」(12 月 19 日~2 月 18 日)、(公財) 大阪科学振興協会が運営する大阪市立科学館で企画展「江戸時代の天文学」(1 月 20 日~3 月 1 日) が開催されるという 3 施設連携の展示事業展開を実現した。また、自然史博物館では、特別展「ネコと見つける都市の自然一家の中から公園さんぽー」ミニ展示を、市立図書館と連携し、中央図書館をはじめとする市内各図書館 12 力所 (4 月 18 日~10 月 15 日) で巡回、実施した。

### 3. 法人の情報発信

各館・所の広報活動を支援するため、協会ホームページとは別にポータルサイト「Osaka Museums」を 12 月 1 日に開設した。これにより大阪市ホームページをはじめ、大阪観光局等、他機関等とのリンク拡充の環境醸成を図った。また SNS 活用の取り組みとして、10 月 1 日には「ミュージアムウィークス」の開催初日に合わせて Facebook と Twitter のアカウントを開設し、また大阪市交通局や大阪観光局 Facebook との連携にも取り組んだ。

平成 25 年度当初に協会ホームページのリニューアルによりアクセス数は前年度比約 1.5 倍の月平均 3,517 件と増加したが、平成 26 年度のアクセス数は月平均 4,984 件とさらに 25 年度比 1.4 倍の増加となった。これは、毎年秋に実施してきた「ミュージアムウィークス」に関する情報へのアクセスが定着してきたことに加え、ポータルサイトの開設による訪問数の増加、および SNS からのアクセスの増加が要因と考えられる。今後もアクセス数増の取組みとして、関係施設等とのリンク拡充や SNS の支持者の裾野を広げる活動が重要となっている。

また、平成 26 年度においては各館・所の広報担当者を招集した「広報担当者会議」を 3 回開催した。この会議では各館・所の広報を中心とした取り組みについて情報交換を行うとともに、SNS 活用に関する研修会を実施するなど、各館・所の広報担当者のスキルアップ、広報活動に有用な情報の共有化を図り、総務部事業企画課も含めた連携体制による博物館施設等の魅力発信強化を目指した。

### 4. 点検評価

平成 25 年度は外部評価委員会を開催しなかったが、平成 26 年度は 1 回（7 月 31 日）開催し、平成 24 年度に「総合評価」として外部評価委員から受けた指摘内容についての各館・所における措置状況を報告した。また、改めて外部評価委員より各館・所における現状と今後について多岐にわたる指摘や助言を受け、その内容について協会のホームページに公表した。

## 5. 共同広報事業・共同キャンペーン

10 月 1 日～11 月 3 日の 34 日間、各館・所が統一テーマを設けて所蔵品を公開する共同キャンペーン「ミュージアムウィークス大阪 2014—大坂の陣 400 年」を開催した。併せて、「大坂の陣 400 年」コラムとミュージアムの魅力を紹介した冊子『大阪てくてくミュージアム手帖 2014』を作成し、展示観覧者に配布した。期間中には各館で来館者アンケート調査を実施し、広報効果および各館来館者の回遊動向をはかるとともに、「ミュージアムの楽しみ方」を提案いただき、今後の事業展開のための情報収集を行った。また、今年度はチラシの配布先を見直し、地下鉄駅への設置を主として、書店・ホテルや各館周辺のカフェ等の店舗に配置し、広報先の開拓を進めた。

共同広報事業の一環として、総合案内パンフレット「Osaka Museums Guide」およびポストカード「OSAKA MUSEUMS CARD COLLECTION」を作成した。総合案内パンフレットは、ポータルサイト「Osaka Museums」に連なる市内 10 施設（協会所管の館・所を含む）の基本情報を紹介したもので、周辺のミュージアム関連施設を含む各施設に配置した。ポストカードは 9 施設の所蔵品等をデザインし、ペーパークラフトとしても楽しめるものとした。各施設のイベント等で配布したほか、今後の広報手段として活用していく予定である。

## 6. 普及啓発事業

ミュージアム連続講座（1 月 30 日・2 月 6 日・2 月 13 日）を大阪市立難波市民学習センターで実施した。平成 26 年度は「大坂の陣とその時代」を共通テーマに、大阪城天守閣・大阪歴史博物館・大阪市立東洋陶磁美術館・大阪市立美術館・大阪文化財研究所および大阪市立大学から 6 名の講師が、多様な視点から大坂の陣とその時代を紹介した。定員（120 人）を大きく超える応募があり（382 人）、参加総数は 302 人と盛況であった。

## 7. 外部資金獲得による事業

公益財団法人 武田科学振興財団による「2014 年度 中学校理科教育進行奨励」を得て、中学校の校外学習における博物館施設利用についての実態調査と、中学校向きワークシートを作成した。実態調査の結果、市立中学校の 65% が校外学習で博物館を利用し、大阪の歴史や地域を知るために、実物等の資料のある博物館を使って生徒の興味・関心を高めたいと考えていることが分かった。ワークシートは、グループ活動で自然史博物館・動物園・科学館という自然科学系 3 施設を共通テーマでめぐる内容で 3 種（ゾウの巻・人の暮らしに役立つものの巻・大阪の巻）作成し、またワークシートの手助けとなる施設の利用ガイド 1 種を作成した。市立中学校への広報を行うほか、博物館協会ホームページからデータのダウンロードを可能とした。中学校の博物館施設利用の促進ツールの一つとして、平成 27 年度以降、活用していく。

### 3 大阪文化財研究所事業

平成26年度のおもな発掘調査には、豊臣石垣公開プロジェクトの一環で調査した大坂城本丸跡金蔵地域や、中之島蔵屋敷跡の土蔵群などがある。いずれも現地説明会や大阪歴史博物館の速報展示などで成果の公表に努めた。報告書作成では難波宮跡や中之島蔵屋敷跡、平野区加美遺跡の近畿地方最大級の弥生時代墳丘墓などの重要な調査や、過年度の調査で未報告であった大阪市内北部遺跡群の報告書を刊行し、平成7年度以前に契約した未報告の報告書をすべて刊行し終わった。文化財の保存科学の研究と事業も順調に進め、これらの成果を博物館・美術館群、市民団体との連携で活用し、教育普及事業を通じて大阪の歴史と文化財の周知を図った。

一方で、発掘調査・報告書作成の受託量は従来に比べて大きく減少し、経費削減をはじめとする対応に迫られた。

また、文化庁・福島県の要請に応じて、東日本大震災復興支援のため学芸員1名を1年間、(公財)福島県文化振興財団に派遣した。

#### 1. 埋蔵文化財の調査及び報告書作成など

##### (1) 文化財調査受託事業 ([ ] は昨年度、個別の事業は一覧表参照)

平成26年度の発掘調査は契約件数48 [205] 件、調査面積3,814 [18,610] m<sup>2</sup>、受託額137,968,660 [445,912,876] 円（税抜）であった。前年比で受託件数は23%、面積は20%、金額は30%に減少した。件数の減少は、前年度101件あった国庫補助調査・試掘調査・確認調査を大阪市教育委員会が直接実施することとなった影響が大きいが、その点を勘案しても、前年度の面積 [17,107m<sup>2</sup>：本調査のみ] ・受託額 [430,235,352円：本調査のみ] と比較して大きく減少している。

以上に報告書作成受託収入を合わせた金額は1億6,000万円強 [6億60万円強] で、前年比約27%である。委託元の内訳は、大阪市27.17[45.03]%、国0[13.10]%、大阪府4.31[4.23]%、民間68.52[37.64] %であった。発掘調査にかかる公共事業の減少から大阪市からの受託額は25年度の総額約2億7,050万円弱から総額約4,370万円弱（16%）に減少し、事業量激減の主因となっている。また民間事業者からの受託額は約1億1,000万円強で、昨年度の半分以下であった。

	発掘調査受託事業				報告書作成受託事業			合計	
	件数	面積	受託額（税抜）	件数	受託額（税抜）	件数	受託額（税抜）		
国関係	-	-	-	0.00%	-	-	0.00%	-	0.00%
大阪府	-	-	-	0.00%	1	6,927,000	30.51%	6,927,000	4.31%
大阪市	1	485	27,880,660	20.21%	4	15,779,000	69.49%	43,659,660	27.17%
民間	47	3,329	110,088,000	79.79%	0	※	0.00%	110,088,000	68.52%
合計	48	3,814	137,968,660	100.00%	5	22,706,000	100.00%	160,674,660	100.00%

●上記の報告書作成受託事業には特定事業引当金（過年度調査29件）事業分は含めていない

※印は発掘調査受託費用で報告書を印刷・刊行したもの1冊がある

おもな調査成果には難波宮跡・大坂城跡に関連するものがある。難波宮跡の調査では、前期難波宮の宮殿南門の南約140mで南北の溝が発見され、朱雀大路の西側溝と推定された。ま

た、飛鳥時代の「玉作五十戸俵」と記された木簡が出土し、孝徳朝に遡る資料ならば大化改新詔にある地方行政単位の「五十戸（さと）」を実証する資料として注目された。大坂城本丸の金蔵地区では、江戸時代の玉砂利や瓦片を敷いた道路跡が発見され、本丸内の施設をつなぐ道として初めての調査となった。中之島蔵屋敷跡では、江戸時代後半に出羽国の生駒氏や鹿島藩（佐賀藩支藩）が使用したと推測される場所で、土蔵4棟が見つかった。これまで調査された西国雄藩の蔵屋敷と違って、敷地の多くが蔵で占有されたとみられた。高津御蔵跡では、市内9例目となる江戸時代のベンガラ製造の資料が発見された。

報告書は合計9冊を刊行し、約300箇所の教育委員会や調査機関、大学などに配布した。とくに重要な報告書には次のものがある。『難波宮址の研究』20は難波宮の東南の谷から出土した古代の土器群と、「斯々一古」と記された飛鳥時代最古級の木簡を報告した。『中之島蔵屋敷跡Ⅱ』は、上記の調査を報告したものである。『加美遺跡V』は近畿地方最大級の弥生時代中期墳丘墓の、『加美遺跡VI』は同調査の弥生時代末～古墳時代初頭の方形周溝墓46基などに関する調査成果をまとめている。これらに加えて、未報告であった四天王寺旧境内跡などの過年度の調査（29件）の報告書『大阪市内北部遺跡群』を刊行し、報告書作成公開費用等積立資金にかかる事業を完遂した。

#### (2) 保存処理・分析事業

受託額は昨年度より増加した。大阪大学・藤井寺市・堺市など大阪府下8件、田原本町・高取町など奈良県下3件、近畿圏ではほかに兵庫県立考古博物館・和歌山県立紀伊風土記の丘、中国四国地方では総社市教委・鳥取県立博物館・島根県教委・松山市・（公財）高知県文化財団・今治市教委・南国市教委、九州地方では松浦市教委の10組織からの依頼を合わせ、全体で25〔25〕件の事業を受託した。以上の保存処理・分析業務の受託額は約2,350万〔約1,890万〕円であった。

#### (3) 文化財関連施設の管理事業

大阪市埋蔵文化財収蔵倉庫（平野区）・東淀川調査事務所（東淀川区）・西淀川収蔵倉庫（西淀川区）・常吉収蔵庫（此花区）で恒常的な出土遺物の管理を行い、約2,110箱の遺物収納コンテナの移動や整理作業による収蔵遺物の系統的な管理を行った。

## 2. 保存科学技術の開発と文化財など実資料への適用

他組織からの受託事業と並行して、大阪市内発掘調査の出土品多数に対する保存処理を進めた。大坂城下町跡の木器、前期難波宮跡の木簡をはじめ、約500点の保存処理を終えることができた。このほか高津御蔵跡の近世赤色顔料（ベンガラ）に対する蛍光X線による成分分析、大坂城下町跡の銅製品などに対する金属器保存処理を行った。また、加美遺跡の古代建物の柱穴で行った断面剥ぎ取りは、別に保存処理した出土柱材と接合し、大阪歴史博物館の特集展示「新発見！なにわの考古学2014」で公開した。

継続して進めている木製文化財に対する新しい保存技術（トレハロース法）について、韓国国立慶州博物館や鹿児島県、長崎県などで研究会を開催したほか、日本文化財科学会などで研究発表を行った。また、長崎県松浦市より依頼を受け、国史跡鷹島神埼遺跡（元寇沈没船）の保存処理の技術指導を行うなど、国内外から高い評価を得た。

### 3. 文化財に関する研究

科学研究費助成事業として基盤研究(B)・(C)の2件(364万円)を遂行した。基盤研究(B)「考古学と現代社会」では、パリ第一大学のジャン=ポール・ドムール博士による講演会「フランス考古学のいま」を大阪で開催したほか、ロンドンで開催された大和日英基金主催の公開セミナー「文化遺産を発掘する：東日本大震災3年後の考古学」で講演した。基盤研究(C)ではトレハロースを用いた木製文化財の保存技術の研究を継続し、国内だけでなく海外へも普及し始めている。

また、大阪市立大学と難波宮の共同研究を継続し、シンポジウム「難波宮と大化改新Ⅱ」を行ったほか、大阪歴史博物館・(公財)大阪府文化財センターと共にシンポジウム「大阪における古地理復元と中世史再構築の試み」では、昨年度まで行った基盤研究(A)の成果を発展させ、古地理学・文献史学・考古学の学際研究を始めた。

そのほかに学芸員の研究成果を公表するため、『研究紀要』第16号を刊行した。

### 4. 教育・普及事業

#### (1) 展示などをはじめとする資料活用

大阪歴史博物館と共に特別展「大阪遺産 難波宮—遺跡を読み解くキーワードー」(6/21~8/18)、特集展示「河内平野の弥生王墓」(7/16~9/1)、同「新発見！なにわの考古学2014」(9/3~11/3)を開催した。大坂の陣400年天下一祭を冠した「難波宮」展では、1954年に始まった難波宮跡の発掘60年を振り返り、調査の歴史と研究成果を総覧し、発見と保存に尽力した研究者たちにも焦点を当てた。「弥生王墓」展では、加美遺跡の弥生時代の大型墳丘墓に供献された大量の土器、副葬された希少な銅やガラス製品などを紹介した。天下一祭を冠した「なにわの考古学」展では、平成25年度の発掘成果から長原遺跡の弥生時代堅穴建物跡、難波宮跡の飛鳥時代木簡、大坂城の徳川期葵紋鬼瓦など、約170点の出土資料を紹介した。また、平成26年度特別展「大坂—考古学が語る近世都市ー」(2015/4/18~6/8)の開催に向けて準備を行った。

このほか、平野区「古代市」に合わせて「古代のクラフト展」を大阪市立クラフトパークで開催して長原遺跡の古墳時代資料を展示し、また市内各地の公共施設や民間施設に設置された展示施設「街角ミュージアム」では、北区役所の展示(20点)が増え36箇所1,806点の出土品を通年で公開した。

さらに、全国の博物館・美術館などの借用申請に対応した出土品は20件488点、出版目的で提供した写真・図面は80件316点、資料調査や見学への対応は22件であった。

#### (2) 講座などによる教育普及や人材育成

発掘現場を見学できる現地説明会(中之島蔵屋敷跡1回、大坂城跡1回、合計2,210人)や、大阪歴史博物館と共に研究所学芸員による「金曜歴史講座(14回、1,585人)」と「大阪の歴史を掘る講演会(64人)」(「なにわの考古学」展関連行事)などを開催した。

「平野区歴史講座(大阪市コミュニティ協会)」、「平野住民大学講座(平野区画整理記念会館)」、「考古学連続講座(総合生涯学習センター)」、「新しいちよう大学(NPO法人新しいちよう大学校)」、「すみよし北講座(市民交流センターすみよし北)」などの他団体が主催する講座に対し、企画や講師派遣を行った。また、考古学や文化財の研修や教育課程の講師と

して調査機関や大学に学芸員を派遣した。

そのほか、大阪歴史博物館と共同で普及図書『大坂 豊臣と徳川の時代 - 近世都市の考古学 -』の作成を進めた（平成27年4月刊行）。

#### (3) 地域と連携したイベントなどの共催・出張展示

本年度もNPOやボランティアガイドなど市民団体と協働して「難波宮フェスタ2014」で講演会やワークショップを、平成23年から継続している「なにわの宮リレーウォーク」（第4弾）で文化財探訪イベントを行った。文化財見学サイト「なにわまナビガイド」にはボランティアガイド団体の活動紹介メニューを作り、各団体が自らイベント案内や活動情報を更新するなど、情報発信の機会を設けた。また、平野区役所と共同で、地域住民を対象とした「長原遺跡の最新成果報告会」や、同区の市民と実行委員会を組織する第12回「古代市」などでワークショップや展示解説を行った。

#### (4) 体験活動事業

本年度は史跡整備のための難波宮跡の発掘調査がなかつたため、体験発掘は行っていない。大阪市内の小学生ほかに対し、史跡と隣接する難波宮調査事務所の展示室の見学案内を行った（18件550人）。

#### (5) 情報発信

発掘調査や出土品、シンポジウムなどの文化財に係る新聞報道は14回で、文化財情報誌『葦火』は6回（169～164号）各1,500部を刊行した。定期購読者は127 [116] 人であった。ホームページでは、従来のイベント案内や出版情報などに加えて、「街角ミュージアム」のアクセス情報（インターネットでの広報が可能な19箇所）、科学研究費助成事業の実績と成果のPDF公開、発掘報告書のPDF公開（現在は『加美遺跡V』のみ）など、新たなコンテンツを追加した（接続69,427 [76,523] 件／累計671,914件）。また、文化財見学サイト「なにわまナビガイド」は約8,900 [7,100] 人の利用者があった。

#### (6) 関連資料の収集・管理

図書は交換・購入により2,224 [6,370] 冊を登録し、登録台帳のデジタル化を進めた。研究所図書は87,724 [85,500] 冊で、外部からの閲覧希望にも対応した。

#### (7) 他団体との連携

7年目となった全国埋蔵文化財法人連絡協議会の近畿ブロック（13団体）による「関西考古学の日2014」に参画し、講演会「縄文の造形宇宙」（滋賀県）、リーフレットによる共同広報、スタンプラリーなどを実施した。

### 5. 博物館・美術館との連携

発掘調査の出土品と研究成果を活用し、特に大阪歴史博物館との特別展・特集展示や関連行事の開催、普及図書の編集・執筆で連携した。そのほか「ミュージアム連続講座2014」などの事業でも連携した。

また、大阪市立大学との包括連携協定企画であるシンポジウム「難波宮と大化改新II」、豊臣石垣公開プロジェクトと共に歴史講座「地下に眠る豊臣大坂城の石垣を探る」などに参画、協力した。

## 6. 東日本大震災復興支援など学芸員出向

福島県の要請に応えた大阪市の依頼を受け、当協会から東日本大震災復興支援の埋蔵文化財調査のため担当者1名を1年間、（公財）福島県文化振興財団へ派遣し、地域の貴重な文化財の保存と活用に寄与した（平成27年6月に文化庁長官の表彰予定）。また、（公財）八尾市文化財調査研究会（1名：下半期）、（公財）和歌山市文化スポーツ振興財団（2名：1～3月）の要請に応え、発掘・整理作業の担当者として学芸員が出向した。

### 3 大阪歴史博物館管理運営事業

常設展・特別展では話題性の高い刀剣の展示や、現代刀匠の特別展を開催するなど、近年の刀剣ブームに対応した展示に取り組み、新たな来館者層の開拓に一定の成果をあげた。また今年度から新たに館長講座やツイッターによる情報発信を開始したほか、館内およびホームページ上で約 7,000 点の写真ライブラリーを公開するなど、多様な利用者層に対する魅力向上に取り組んだ。

#### 1. 資料の収集、保管事業 ([ ]) は昨年度)

購入資料として辛基秀コレクションの「かんきしゅう姜沈蘭図扁額」を含む 35 点を収藏した。寄付資料に関しては、資料収集方針にもとづき、大塩平八郎関係資料など、歴史資料 7,066 点、美術資料 106 点、民俗資料 4 点、芸能資料 92 点、建築資料 26 点、合計 7,294 点 [821 点] を整理・燻蒸し、収集・保管した。この結果、当館で保管する館蔵品は 131,529 点 [124,200 点] に達した。また館蔵資料の一部について必要な修復や保存処理を行った。

#### 2. 展示事業

##### (1) 常設展示

常設展示「都市おおさかの歩み」では、前期難波宮水利施設出土の祭祀遺物などのほか、黒田家伝来の名刀や北丹後地震後に大阪で発行された絵葉書など、各フロアにおいて特別展と関連した資料や話題性のある資料を考慮して館蔵品・寄託品を適宜更新するなど、年間 40 回の展示替えに努めた。9 階では、大阪市立科学館・大阪市立中央図書館との連携展示としてテーマ展示「『はかる』の歴史」を実施した。また、最近の刀剣ブームを受けて短刀「乱藤四郎」を展示するなど、常設展示の話題性づくりにも努力した。そうした結果、本年度の常設展の入場者は前年度比 0.62% 減の 225,413 人 [226,808 人] とほぼ前年度並みとなった。展示解説は、土曜・日曜・祝祭日に実施し、1,512 人 [1,336 人] の参加を得た。

##### (2) 特集展示

特集展示室では、大阪市内の最新の発掘成果を紹介した「新発見！なにわの考古学 2014」や共同研究の成果に基づく「両替商 錢屋佐兵衛」のほか、「なにわと朝鮮半島」・「意匠を読み解く 小袖の魅力」・「河内平野の弥生王墓」・「月岡雪鼎とその一門」など館蔵品・寄託品を活用した年間 8 本の特集展示を開催し、大阪の歴史と文化の情報発信と再評価に努めた。

##### (3) 特別展示・特別企画展

26 年度の特別展は学芸員の自主企画による展示 2 本と、大阪あるいは学芸員の専門性にかかる巡回展 2 本の計 4 本を開催した。

特別展「上方の浮世絵一大坂・京都の粹と技一」(平成 26 年 4 月 19 日～6 月 1 日 開催日数 39 日間 巡回展) は、近年世界的な規模で調査研究が進み、注目が集まっている上方絵の全体像を通覧できる展覧会として展示の構成および作品の選定をおこない、開催した。

特別展「大阪遺産 難波宮—遺跡を読み解くキーワード—」(平成 26 年 6 月 21 日～8 月 18 日 開催日数 50 日間 自主企画展) は、平成 26 年が難波宮の第 1 次発掘調査が開始されて 60 周年となるのを記念し、長年にわたる調査成果とその発掘史をたどる目的で

実施した。

瓦や土器、文字といった簡明な 15 のキーワードを軸に構成し、難波宮が未来に向けた大切な遺産であることを発信した。

特別展「村野藤吾一やわらかな建築とインテリアー」（平成 26 年 9 月 3 日～10 月 13 日 開催日数 35 日間 自主企画展）は、大阪を拠点に活躍した日本を代表する建築家村野藤吾の業績を回顧する目的で開催した。本展ではひとの感性や手仕事を重視し建築やインテリアの細部へのこだわりを示した村野の設計に着目し、その個性あふれる作品を紹介した。

特別展「一現代刀匠二番勝負—お守り刀展覧会×二次元 VS 日本刀」（平成 26 年 11 月 1 日～12 月 23 日 開催日数 47 日間 巡回展）は、現代刀匠の刀剣制作における伝統と革新という 2 つの柱を「お守り刀展覧会」と「二次元 VS 日本刀展」という 2 つの企画で一体的に展示し、未来を指向する現代刀匠たちの「今」を紹介した。

本年度特別展の観覧者は合計 69,462 [189,422 人] で、昨年度比 36.7% にとどまった。

### 3. 調査・研究事業

難波宮と大阪学の研究を 2 本柱とし、「前期難波宮の官衙遺構についての基礎的研究」、「大坂の両替商錢屋佐兵衛家の研究と展示」、「高島多米治と下郷コレクションについて—岩手県瀬戸沢貝塚資料—」の 3 課題の共同研究を実施した。また基礎研究としては、「末永雅雄刀装具コレクションの基礎調査」、「大阪と江戸・東京との都市比較史研究」の 2 課題を実施した。研究成果については「研究紀要」などで発表し、「なにわ歴博講座」などをとおして市民に還元した。

また昨年度に実施した共同研究「高島多米治と下郷コレクションについて—余山貝塚資料—」の成果を「共同研究報告 9」として刊行した。外部資金による研究では、科学研究費補助金 507 万円 [208 万円] を獲得し、基盤研究 (B) 1 本、基盤研究 (C) 2 本、挑戦的萌芽研究 1 本を行った。

### 4. 教育・普及事業、学習支援

教育普及事業としては、市民の歴史学習を支援するため、金曜夜間の学芸員による「なにわ歴博講座」や大阪文化財研究所との共催による「金曜歴史講座」のほか、上町台地をテーマにした科研を引き継ぐシンポジウム、歴史的な街道と遺跡を訪ねる「なにわ考古学散歩 上町台地北部に古代の痕跡を求めて」や「大坂町あるき」などの見学会を開催し、加えて栄原館長による講演会や館長講座「館長と学ぼう 新しい大阪の歴史」を新規に実施することで多彩なメニューを市民に提供することができた。また各特別展や特集展示においても、関連の内容でシンポジウム・講演会・講座・見学会・コンサート・ワークショップ・展示解説など多くの行事やイベントを開催した。これらの事業は合計 121 回を実施し、総計 9,630 人の参加者を得た。

子どもを対象とした「わくわく子ども教室」では、「考古学者になってみよう」を 4 日間開催して 39 人 [49 人] の参加があり、常設展 8 階では毎月第 1 土曜の「和同開珎の拓本でしおりをつくろう」と「むかしの瓦の拓本体験」に、年間 300 人 [286 人] の参加者があった。また、季節に合わせて開催した夏の「綿くり・糸つむぎ体験」には 2 日間で 115 人 [151 人]、正月の「凧づくりと凧あげ」には 16 人 [25 人] の参加者を得た。毎月 2 回、1 階のエントランスでおこなう「手作りおもちゃで遊ぼう」はおもちゃ作りサポーターによる協力のもと 23 回実施し、1,819

人〔2,050人〕の参加者があった。

ボランティア事業は、市民参加型博物館をめざす事業の一環として開館時から導入しているもので、今年度は195人が登録し、活動は、難波宮の遺跡をめぐるガイドツアー、常設展示での子どもスタンプラリー、古代衣装・江戸時代の両替商体験・明治の双六遊びなど6種のハンズオン、8階の「歴史を掘る」コーナーでの考古学の体験学習を実施した。さらに「iPadで楽しむ難波宮遺跡探訪」「石組水路の一般公開」への協力もおこなった。ボランティアの活動は休館日と研修日を除き年間305日で、延べ5,641人〔6,523人〕が活動を行った。なお、ボランティア活動の充実と来館者対応の向上を目的に、7月から3月にかけて講習会、他施設の見学会、懇談会・班別交流会など、年間8回の館内・館外研修等を実施した。また、現在のボランティアは平成26年度末で任期が終わるため、意思確認を行ったところ183名が継続を希望し、さらに新たな募集を行って53名を登録予定者とした。

学習支援関連では、司書・学芸員が常駐する2階の学習情報センター「なにわ歴史塾」で、自由に閲覧できる映像ソフト約100本と図書約6,000冊を中心に、館内外から検索できる書庫内図書約12万冊も活用しながら、大阪の歴史や文化に関する市民の学習相談に応じた。

さらに特集図書コーナーを年間6回設定し、塾の活性化と図書利用の推進に取り組んだ。なお、今年度は機器が老朽化した映像コーナーの改修を実施し、従来の動画に加え、歴史写真約7,000枚の画像（「昔の大坂」写真ライブラリー）が閲覧できる「目で見る大阪コーナー」へとりニューアルした。

また、区役所や生涯学習施設等からの依頼に応えて学習会等の講師を派遣した。

## 5. 学校・市民等との連携

学校連携としては、教員研修、中学生等の職場体験・職業講話、小学校高学年の考古学体験のほか、大学生の博物館実習の受入を行った。

教員等の研修では、大阪市教育センターとの共催で、「大阪市教員研修」(30人)を実施した。中学生等の職場体験・職業講話は、6校71人〔5校14人〕を受け入れたほか、修学旅行等で当館を訪れる小中学生グループからの学習相談にも応じた。また、これまで実施してきた体験発掘にかわり大阪文化財研究所と連携して「考古学体験教室」を開催し、11月10日～13日の期間中、市内の小学校5校、273名の児童を受け入れた。大学生の博物館実習は8月後半から9月前半に延べ12日間で12大学43人〔12大学42人〕を、博物館見学実習については490人〔604人〕を受け入れた。なお小中学校による団体利用は、小学校410校〔447校〕、中学校153校〔205校〕、そのうち大阪市立の小学校190校〔211校〕、中学校54校〔69校〕である。全体として顕著な減少となった。

市民等との連携では、上町台地を拠点に活動するNPO法人まち・すまいづくりとの共催で「うえまちコンサート」を開催した。またNPO法人OSAKAゆめネットとの共催で、難波宮の発見者である故山根徳太郎博士の命日にちなみ、7月28日に「難波宮フェスタ2014」として講演会・ワークショップ・石組み遺構特別公開などを開催し、2,722人〔2,854人〕の参加者を得た。

## 6. 情報発信、広報宣伝

情報発信、広報宣伝については館事業を広く周知し、館利用者の増を目的として積極的

に取り組んだ。館の存在の周知を徹底する目的から、地下鉄車内における案内放送を通年で実施するとともに、外国語による情報提供の充実のため英文年間行事予定表の制作と、英語による特別展概要・主要作品紹介をHPにアップした。web関係ではHPに展示・普及事業にかかる案内をすべて掲載し、年間で433,635件(463,252件)のアクセスがあった(1日平均1,188件、前年度比94%)。なお、HP上で「昔の写真」写真ライブラリーの公開を開始した。また「モバイルサイト」や「なにわ歴博ブログ」の活用、なにわ歴博カレンダー(4回各2万部)、子どもを対象とした「なにわれきはく新聞」(4回各1万2千部)などの紙媒体の発行も継続し、多様な層への情報提供に引き続き取り組み、26年度は新たにツイッターの運用も開始した。

## 7. 来館者サービスの向上

館内のレストランとの連携をはかり特別展ごとに観覧者への入館割引または飲食割引のサービスを実施している。今年で5年目を迎えた大阪城天守閣とのセット入場券(常設のみ)は、両館で33,007枚(前年度比128%)を販売し、好調な伸びを見せている。ショップで販売する館蔵品を利用した商品としては近世の大坂図「新撰増補大坂大絵図」(複製)が在庫薄となつたため増刷し、くわえて二種の近世大坂図(複製)を新たに製作した。

## 8. 施設の維持管理

建物設備の維持保全のため空調をはじめとする電気、機械設備などの機器・装置の日常点検のほか、定期メンテナンス、法定点検などを実施し良好な施設設備の維持に努めた。また経年劣化等による機器の不具合に対応し、空調関係機器の消耗性部品の交換、送風機のオーバーホールを行った。蒸気配管の劣化については大改修が課題となっていたが、大阪市による4カ年計画で24年度に改修に着手、3年目の本年度は南側往管の改修が実施された。その他の系統については、部品交換等応急的な補修により蒸気漏れ等の故障に対応した。老朽化に伴う保守困難や障害が頻発していた館内ネットワーク機器は、最低限の更新整備を行いシステム運用の安定化を図った。

防火・防災に関しては当館、N.H.K大阪放送局、ビル管理会社が一体となった訓練を行い、非常時の対応について三者で確認を行った。

## 9. 友の会 その他独自事業

自主運営団体である友の会については、平成26年3月の臨時総会で自主運営化への実務が完了した。事業としては「史跡をめぐる」「街道を歩く」をテーマとした見学会など、計8回が行われ、233人の参加者があった。なお当館は、事業の企画や講師の派遣などをとおして友の会の活動支援を行った。

その他、独自の事業として、ジュンク堂書店大阪本店で、展示図録等の常備販売を実施している。

## 5 大阪市立自然史博物館管理運営事業

平成 26 年度は自然史博物館が長居公園に移転し長居植物園とともに開館・開園して 40 年となったので、特別展および関連企画を単独で、あるいは長居植物園と共同で開催した。

特別展は会計年度を越えて開催した特別展を含めて、3 回開催した。主催展として開催した「ネコと見つける都市の自然」展は、準備段階(調査研究、資料収集)から 4 年間にわたって大阪市立自然史博物館友の会会員を中心に組織した、「都市の自然調査プロジェクト Project U」のメンバーと共に実施した調査成果の発表の場でもあった。

1 月 30 日（金）には、秋篠宮殿下の大坂府お成りの一環として、当館のご視察を受けた。

### 1. 資料の収集、保管事業

動物・植物・昆虫・化石・岩石・鉱物等の資料を、大阪を中心に日本全国、さらに必要に応じて海外からも収集した。収集した標本は低温燻蒸などを実施した後、温度湿度管理が可能な収蔵庫において、資料ごとに最適な環境で保管し、展示・研究活動に活用している。この数年間、新規資料は主として寄贈によって増加している。26 年度に寄贈を受けた主なコレクションは以下の通りである。

都市の自然調査プロジェクト Project U 採集標本（コウガイビル・陸産貝類など 167 点）、オオカンガルー・ヒョウなどの飼育哺乳類（天王寺動物園、58 点）、日本産イシガイ類標本（250 点）、日本産ハゼ科魚類（298 点）、奄美大島産ハネカクシホロタイプ・タイプシリーズ（6 点）、日本産ベニボタルタイプシリーズ（7 点）、都市の自然調査プロジェクト Project U 甲虫班採集標本（2,478 点）、日本産昆虫（春沢コレクション）（8,239 点）、ツバキ関係書籍・図譜一式、東北地方津波被災地の植物標本（243 点）、岐阜県瑞浪層群産貝化石標本一式、香川県和泉層群のウミガメ・首長竜化石（9 点）、Eostegodon など化石ゾウ臼歯模型（50 点）。

平成 26 年度末の総資料数は 156 万 5,645 点である。（昨年度末比 39,893 点の増加）

### 2. 展示事業

平成 26 年度の入館者数は、常設展 207,526 人（うち有料 80,447 人）、特別展 120,120 人（うち有料 40,375 人）であった。常設展、特別展を合わせた総入館者数は、327,646 人であった。常設展入館者は前年度比 9,792 名増、総入館者数も前年度比 18,071 名増となった。

#### (1) 常設展示

平成 26 年度には、第 2 展示室から 2 階に上がる階段部分の壁クロスの一部張り替え補修工事を行うとともに、満足度向上もめざして「ジオラボ」・「子どもワークショップ」・「ミニワークショップ（たんけんクイズ）」等の館内行事を実施し、来館者サービスに努めた。

#### (2) 特別展

##### ① 第 45 回特別展「ネコと見つける都市の自然 一家の中から公園さんぽー」

＜会期＞ 平成 26 年 7 月 19 日（土）～10 月 13 日（月・祝）

都市は、もともとあった自然を人間がほぼ完全につくりかえることによって、新しくできた環境。もともとその場所にすんでいた生き物の大部分は姿を消している一方で、都市がつくられることによって、逆に数を増やす生き物もいる。当館では平成 10 年にも特別

展「都市の自然」を開催したが、その後約 15 年間の変化を含めて、大阪市立自然史博物館友の会会員を中心とした、「都市の自然調査プロジェクト Project U」で市民と調査を実施した。その成果を中心に、単に都市の生物相を紹介するだけでなく、都市の自然の“変遷”を一つの大きなテーマに据えて、都市の自然の実態を紹介した。いわゆる「目玉」となる展示物の設定が困難なために、ネコの「ニャンタロウ」を語り部にして展示を組み立てる手法を採用した。

なお、本特別展は、大阪市立自然史博物館開館 40 周年記念イベントの一環として開催した。都市の自然調査プロジェクトは、平成 23 年 4 月から 26 年 7 月まで活動し、登録メンバーは 156 名であった。

#### 【主な展示物】

家の中の虫、都市の鳥類・哺乳類、公園の昆虫、公園の植物・菌類、埋立地の植物など外来生物など。企画物としては、入って虫をさがせる部屋、巨大な蚊の大群、巨大ゴキブリホイホイ、過去と現在の大阪市内の水田面積を示した床張りを展示した。

入場者：13,275 人（うち有料合計 3,914 人）。

#### ② 大阪市立自然史博物館・長居植物園 40 周年記念企画 特別展

「恐竜戦国時代の霸者！トリケラトプス」～知られざる大陸ララミディアでの攻防～  
(読売新聞大阪本社、中央宣伝企画と実行委員会を組織し開催)

＜会期＞ 平成 26 年 3 月 21 日（金・祝）～5 月 25 日（日）(61 日間で 110,461 人。  
うち平成 26 年度は 50 日間、89,880 人)

恐竜時代の最後・後期白亜紀に北アメリカ大陸の東西の分断によって出現したララミディア大陸をクローズアップすることで、そこを舞台に多様化し、繁栄していった植物食恐竜トリケラトプスの仲間の起源と進化の謎に迫った。日本初公開となる多数の新しい標本を用いて、トリケラトプスの仲間の起源から絶滅までの歴史を、多彩な骨格標本や生態復元モデルを通じて分かりやすく描いた展示を行った。

#### ③ 特別展「スペイン 奇跡の恐竜たち」

(読売新聞大阪本社、讀賣テレビ放送と実行委員会を組織し開催)

＜会期＞ 平成 27 年 3 月 21 日（土・祝）～5 月 31 日（日）(うち平成 26 年度は 11  
日間、16,965 人)

本展では 2010 年にイギリスの科学誌「ネイチャー」で発表された、腰部分に奇妙な突起をもち、羽毛や手足の裏の肉球のあとが残る“奇跡的”な保存状態の恐竜「コンカベナトル」の全身骨格標本をはじめ、スペインから発見されている白亜紀の様々な恐竜化石や初期の鳥類化石、そして生息環境を示す動植物の化石を多数展示している。

#### (3) 特別陳列等

##### ①ミニ展示「植物標本のタネは地域の自然を救う！？」

～時を越えて発芽する植物標本のタネ～

会期：平成 26 年 3 月 15 日（土）～5 月 31 日（土）

大阪市立自然史博物館の標本庫には、都市化などによって現在では失われてしまった植物の標本を数多く保管している。今回の展示では、当館元学芸員で新潟大学教育学部の志賀准教授の科学研究費による研究成果を元に、博物館標本を用いた新しい生物保全の可能

性について、本館2階第5展示室出口において展示した。

② 自然史博物館・長居植物園40周年記念企画

恐竜戦国時代の「エサ」?!—化石と長居植物園で知る植物の進化— 恐竜が食べたかも  
しれない植物に触ってみよう!

会期: 平成26年4月26日(土)~5月25日(日)

会場: 花と緑と自然の情報センター2階 アトリウム

中生代には様々な恐竜が栄えたが、「エサ」となった植物があったからこそ植物食恐竜は栄えた。そして、植物食恐竜が栄えたからこそ、肉食恐竜も栄えたと言える。展示では、恐竜のエサとなった植物化石の他、地球最古の陸上植物から、現在栄えている被子植物までの化石を展示し、化石をもとに、5億年の植物の進化をたどった。会期中に開催していた特別展「恐竜戦国時代の霸者!トリケラトプス」とも関連した展示としても企画した。

③ ミニ展示 ミュージアムウィークス大阪2014 大坂の陣400年 「大阪城の石垣の石材」

会期: 平成26年10月1日(水)~11月3日(月・祝)

発掘調査が行われた豊臣期大坂城の石垣と徳川期大坂城の石垣に使われている石材について解説し、推定される産地の石材と同じ岩石を収蔵標本から選定して本館1階入口脇の展示スペースで展示した。

④ ミニ展示「夏休み 自由研究・標本展」

会期: 平成26年12月6日(土)~平成27年2月1日(日)

児童生徒が夏休みに行った自由研究や、作成した標本を、本館2階イベントスペースで展示した。

⑤ ミニ展示「タンポポの不思議を探ろう」

会期: 平成27年2月17日(火)~ 繼続中

サクラや菜の花同様、誰もが春の花としてその名をしるタンポポ。春休み、そして春の遠足シーズンを前に、タンポポのちょっとした生態とともに自然史博物館が開発した学校向け貸出教材の紹介の意味を含めて、本館1階入口脇の展示スペースで展示した。

### 3. 調査研究事業

調査研究は博物館活動の根幹をなすものであり、学芸員の個別テーマによる研究をはじめ、今年度の特別展開催に向けて市民と協同で進める「大阪を中心とした都市の自然プロジェクト調査」、平成29年度開催予定の特別展準備を兼ねた「瀬戸内海の総合調査」などを実施してきた。その成果は特別展「ネコと見つける都市の自然 一家の中から公園さんぽー」で紹介し、館で刊行する研究報告や学会誌で公表するとともに、講演会を通じて市民に普及した。

26年度は外部研究資金として文部科学省科学研究費補助金は基盤研究8件(基盤研究A1件、同B1件、同C6件)、若手研究4件の補助を受けた。民間ファンドでは、全国科学博物館活動等助成事業、タカラ・ハーモニストファンドによる研究助成も各1件採択された。

### 4. 教育・普及事業

市民が自然をより深く理解するためには、展示を見るだけでなく、野外で実物の自然に触れることが重要である。自然史博物館ではこのような観点から、多様な博物館利用者とその

要望に応えるため、各種の普及行事を行っている。これら普及教育事業の開催は228回(うち雨天中止が13回)、参加者総数は38,882人(昨年度は30,527人)であった(詳細は別紙資料編に掲載)。

また、行事の実施に際しては、自然史博物館のボランティアである補助スタッフの協力を得ている。

## 5. 学校・市民等との連携

「総合的な学習の時間」に応用できるテーマで、学校教員や教員を目指す大学生・自然観察会指導者を対象とした「教員・観察会指導者向け支援プログラム」を計画的に実施できた。

学校向けには、展示解説や標本など博物館資料の貸出し、学校教育を支援してきた。また8月8日には「教員のための博物館の日」を、一般財団法人全国科学博物館振興財団による全国科学博物館活動助成を受けて開催した。

大学生の博物館実習は、14大学、のべ24名の学生を受け入れた。職場体験学習は、大阪府内の中学校4件、視覚支援学校高等部1件(合計7人)を受け入れた。

友の会会員を中心に150人以上の市民が参加するプロジェクトU「都市の自然・生物相」調査を実施し、その成果を特別展「ネコと見つける都市の自然 一家の中から公園さんぽー」で紹介した。「認定NPO大阪自然史センター」との連携により、博物館事業の充実にも努めている。

## 6. 情報発信、広報宣伝

情報発信、広報宣伝については館事業を広く周知し、より多くの市民に博物館を利用してもらうことを目的として取り組んだ。従来型の展示事業・普及教育事業のポスター・チラシを中心とした広報に加えて、研究成果などのプレスリリース、Web・SNSを利用した広報に積極的に取り組んだ。

ホームページは、タイムリーで内容豊富な情報発信に努めている(平成26年度のHPアクセス数(トップページ)は約44万件で、昨年比2万件増)。HP掲載の新着情報を中心に「Twitter」、「Face Book」を通じて情報提供するなどしている。Twitterのフォロワー数は約4200(700の増)であり内容的にも1-3月だけで10万件を超えるインプレッションを獲得しており広報媒体として良好に機能していることがうかがえる。Face Bookは「いいね!」は715人と倍増、特に情報がどのくらいの人に到達したかの指標でもある合計リーチ数は昨年度が7万人だったのに対し、今年度は約28万人と3倍以上に増えた。また特別展の内覧会には、特別展を宣伝協力いただくブロガーを招待し、市民参加型の広報を実施した。

地下鉄車内ガイド放送(最寄り駅案内)を実施し、特別展開催時は特別展情報を、それ以外の時期は常設展を案内し、地下鉄御堂筋線沿の利用者に対して広く博物館の存在を周知することができた(27年度は特別展開催時のみ活用)。

## 7. 来館者サービスの向上

「花と緑と自然の情報センター」には、図書閲覧・情報検索・標本閲覧・ビデオ閲覧のコーナーがあり、学芸員を配置して質問等にも対応し、多くの市民の学習の場になっている。

また、本館ミュージアムサービスセンターでは教育スタッフを配置して学校対応や市民サークルへの窓口を行った。常設展では、来館者向けイベントの「ジオラボ」「子ども向けワークショップ」「自然史博物館探検クイズ」を実施し、多くの来館者から好評を得ている。

JR 長居駅からのアクセス看板設置、長居公園ペナント設置などを長居パークセンターと共同で実施した。

## 8. 施設の維持管理

警備・案内・券売・清掃及び設備等の保守点検を外部委託し、安全・快適な施設の維持管理に努めてきた。職員による日常的な安全点検を励行するとともに、職場安全衛生委員会の職場巡視も行っている。防災対策では、隣接の長居パークセンターと協働で震災・防火訓練を実施した。平成 26 年度は大阪市により、本館展示室 2 階入館者用トイレの更新工事、電話交換機更新工事が実施された。

## 9. 友の会

自然史博物館友の会（26 会計年度は 1,691 名）は、昭和 30 年に大阪市立自然科学博物館後援会として発足した当初から、博物館と連携しながら市民と博物館をつなぐ役目を果たしてきた。その自然史博物館友の会を母体として平成 13 年には「NPO 大阪自然史センター」が発足し、現在は大阪自然史センターが友の会を運営している。

友の会会員は、友の会が主催する行事に参加するだけでなく、博物館が開催する各種の普及教育事業にも積極的に参加し、行事を盛り上げてくれている。また友の会行事は積極的に公開し、一般の人々の参加も可能にしているので、参加者の満足度も高く、友の会への関心を高めることができた。

11 月 15-16 日には「大阪自然史フェスティバル 2014」を大阪自然史センターと共催し、2 日間で 23,300 人が参加し市民の自然に対する興味を深め、関心を高めた。

## 6 大阪市立美術館管理運営事業

美術館では、展覧会にかかる事業が中心となって全体の事業が展開する。

平成 26 年度は、春に「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録 10 周年を記念して三霊場に祀られていた神と仏の姿を明らかにする特別展「山の神仏－吉野・熊野・高野」を、夏から秋にかけてはフランスのオランジュリー美術館などが企画支援をしたこどもを絵画の主題とした作品を展示する特別展「こども展 名画にみるこどもと画家の絆」を、秋には日本工芸における文様の特質を和歌や物語のデザイン化の展開とともに明らかにする特別展「うた・ものがたりのデザイン 日本工芸にみる「優雅」の伝統」を開催した。

また、近年館蔵品・寄託品を用いたコレクション展（平常展）の見やすさとわかりやすさの点での充実をはかり、コレクション展の中で大きくテーマを持たせて開催する特集展示を本年も 1 回実施した。

なお、田万コレクションの狩野宗筆「四季花鳥図屏風」と兵庫・太山寺の寄託品である「四季山水図屏風」が、本年度に国の重要文化財に指定されたが、その新指定を記念して、コレクション展の中で両作品を特出してあらためて紹介した。

### 1. 資料の収集・保管事業

- ・有田焼の陶磁器など 49 件、遼代の工芸品 3 件、寄託されていた銅鐸 2 件（重要美術品 2 件、但し内 1 件は大阪府指定文化財）、備前焼の甕 1 件、中国陶磁器など 24 件、東南アジアの土器・陶磁器 20 件、富岡鉄斎作品 1 件、萬鉄五郎作品など 10 件、松原三五郎スケッチ 1 件、菅楯彦作品 1 件、蒔絵類漆工芸作品ほか 17 件、菅野繁谷作品 1 件、中国絵画ほか 10 件、計 140 件の寄付申出作品に関する評価を行い登録した。
- ・旧なにわの海の時空館展示作品の所管替えを受けて、ブンタオカーゴ・ダイアナカーゴほかの沈没船引き上げの陶磁器など一括 48 件 347 点を館蔵品として登録した。
- ・寄託作品は 27 件を受入れ、29 件を返戻した。
- ・国内外の美術館・博物館に 37 件（127 点）の作品貸出し起案決裁事務を行い、出版社などに作品写真 71 件（152 点）を貸出しした。
- ・中央収蔵庫の燻蒸作業を実施し、あわせて IPM（総合的有害生物管理）の一環としての防虫にかかる清掃作業も実施した。

### 2. 展示事業

#### (1) コレクション展（平常展）

美術館所蔵のコレクションの中から、日本、中国等の東アジアの作品を中心とした展示を特別展と併設して 5 回、194 日開催した。

年間を通したそれぞれのテーマについては、「社寺絵－神仏と人が交わる絵画、江戸の版本と百鬼夜行絵巻、煙管筒 明治・大正の細密工芸、ようこそ信濃橋洋画研究所、工芸たちと文様、中国の彫刻、天来一降り來たる神仏、平成 26 年度新指定重要文化財特集－狩野派の山水・花鳥図屏風、魁春の彩り－明清の絵画、お雛さまを飾る、中国工芸－精緻な

技の世界、東南アジアのやきものーバンチェンからホイアンカーゴまで、江戸時代のきもの微古裳「中村清コレクション」の13テーマと、特集展示の「近世絵画1750-1850」の1テーマである。本年度も、館外の案内看板や展示室の解説パネル、題箋、作品解説などに工夫をこらし、見やすさとわかりやすさにつとめた。なお、コレクション展全体の入場者は75,509人（特別展入館者を含む）であった。

- ・田万コレクションの狩野宗筆「四季花鳥図屏風」と兵庫・太山寺の寄託品である「四季山水図屏風」が、平成26年度に新たに国の重要文化財に指定された。両作品の新指定を記念して、田万コレクションの特別陳列の会期にあわせて、コレクション展の中で「平成26年度新指定重要文化財特集—狩野派の山水・花鳥図屏風—」と題して、両作品を含む室町～桃山時代の狩野派による山水・花鳥図屏風を展示し、両作品の美術史上における位置づけを紹介した。
- ・特集展示（コレクション展の中で、特に大きくテーマを持たせて1フロア一規模で開催する展覧会）は、本年度は秋に北館2階で1回、特別展「うた・ものがたりのデザイン 日本工芸にみる「優雅」の伝統」の会期にあわせて実施した。

#### ①「近世絵画1750-1850」

（平成26年10月28日（火）～平成26年12月7日（日）36日間開催）

江戸時代後期になると、国内外の様々な刺激を受けて、個性豊かな絵師たちが数多く登場した。現在の我々も魅了してやまない伊藤若冲、池大雅、大坂で唐絵師として活躍した林閨苑など、上方の絵師を中心に近世の絵画の優品を館蔵品・寄託品の中から選んで展示構成して紹介した。

#### （2）特別展

##### ① 紀伊山地の霊場と参詣道 世界遺産登録10周年記念 山の神仏 吉野・熊野・高野

（平成26年4月8日（火）～6月1日（日）までの48日間、観覧者数40,682人）

主催：大阪市立美術館・毎日新聞社・毎日放送、紀伊山地三霊場会議

吉野・大峰、熊野三山、高野山の三霊場を巡る「参詣道」の世界遺産登録10周年を記念して開催した。三霊場は、吉野・大峰が役行者を祖とする修驗道の霊場、熊野三山は全国に広がる熊野信仰の神道の聖地、高野山は弘法大師空海によりひらかれた真言密教の根本道場とそれぞれ性格を異にする霊場であるが、山林修行を通じて神と仏を分け隔てなく敬い礼拝する「神と仏のありかた」が今も強く残っている点で特色がある。こうした三霊場の社寺が所蔵する絵画や彫刻を中心に、篤い信仰を集める「神と仏」のすがたを一堂に展示し、それぞれの霊場にどのような神と仏が祀られるのかを明らかにした。来館者の満足度は高かったが、京都国立博物館・奈良国立博物館・ハルカス美術館なども仏教彫刻などを中心とした展覧会が開催されていたために、観覧者数が伸び悩んだ点が惜しまれる。

##### ② 第60回全関西美術展

（平成26年6月24日（火）～7月6日（日）の12日間、観覧者数6,437人）

主催：大阪市立美術館・読売新聞社

全関西美術展は、昭和 16 年に大阪市民の芸術振興を目的として、公募による総合芸術展「大阪市展」として発足し、現在は、読売新聞社と共に「全関西美術展」として開催している。今年度は 778 点の応募があり、541 点が入選し、無鑑査・招待作家の作品 336 点を含めて 877 点の作品を展示した。

③ こども展 名画にみるこどもと画家の絆

(平成 26 年 7 月 19 日(土)～10 月 13 日(月・祝)の 73 日間、台風による休館 2 日間、観覧者数 100,753 人)

主催：大阪市立美術館・読売テレビ・読売新聞社

コローやルソー、印象派を代表するモネ、ルノワールから、20 世紀のマティス、ピカソ、フジタまで、時代や流派も様々な画家達が、友人や自身のこどもを描いた作品約 70 点を展示した。フランス国内に所蔵される絵画を中心に 48 人の画家を取り上げ、画家が報酬と引き換えにではなく、「親」として、あるいは身近なこどもたちを描いた、暖かい目線の作品を一堂にした。来館者からは、こどもたちの愛らしさとともに、作品に込められた作者とモデルのこどもの想いを感じることができた点で好評を博し、東京展を越えて 10 万人を越える来館者を得ることができた。

④ うた・ものがたりのデザイナー日本工芸に見る「優雅」の伝統－

(平成 26 年 10 月 28 日(火)～12 月 7 日(日)の 36 日間、観覧者数 13,605 人)

主催：大阪市立美術館・毎日新聞社

料紙装飾をはじめとして、小袖、蒔絵調度、鏡や刀装具、陶磁器などの工芸作品に表された文様の多くは、和歌や物語から派生し展開したデザインがその基礎にある。こうした文芸意匠の系譜と展開を見ながら、王朝のデザイン 輦手と歌絵、和漢朗詠集のデザイン、和歌のデザイン、物語のデザイン、謡曲のデザインの 5 つのセクションで展覧会を構成した。染織を中心とした日本工芸に表れた文様の優雅な造形作品を一堂にし、日本文化のすばらしさを紹介した。

⑤ 特別陳列 「田万コレクション I 中・近世絵画」

(平成 27 年 1 月 10 日(土)～2 月 8 日(日)の 26 日間、観覧総数 5,910 人)

主催：大阪市立美術館

政治家・弁護士として大阪で活躍した田万清臣氏と明子夫人とが収集した、仏教美術・近世絵画などのコレクションを、昭和 55 年、同 57 年、同 62 年に、明子夫人と子息の侃氏から大阪市立美術館に計 663 点の寄贈を受けた。

今回は、中・近世絵画と日本書跡を中心に、代表的な作品群を紹介し、あわせて中・近世絵画と日本書跡に関する館蔵品図録を作成した。

⑥ 改組 新 第 1 回日展

(平成 27 年 2 月 21 日(土)～3 月 22 日(日)までの 26 日間、観覧者数 46,744 人)

主催：大阪市立美術館・公益社団法人日展

今回、公益社団法人日展は審査方法の改善や組織改革を行い、平成26年秋に改組新第1回として再出発した。大阪展では公益社団法人日展と共に全国巡回する基本作品273点に加えて、大阪・奈良・和歌山・兵庫の地元入選作品311点、合計584点を展示了。内訳は日本画96点、洋画117点、彫刻54点、工芸美術73点、書244点で、日展出品作家による作品解説を15回開催した。また、日展作家による作品プレゼント抽選会を毎週土曜日に5回開催した。

### 3. 調査・研究事業

- ・平成26年度に開催を予定した特別展「こども展」、特別展「うた・ものがたりのデザイン」、平成27年度の開催を予定している特別展「二科展」、平成28年度に延期した「根付展」などについても、作品情報の調査・研究を実施した。
- ・『大阪市立美術館紀要』15号を年度末に発行し、当館学芸員3名による館蔵品などの資料紹介を掲載した。
- ・平成25年度中に文部科学省による科学研究費対象施設として当館も認められ、平成26年度科学研究費補助事業に3研究を申請し認められた。

### 4. 教育・普及事業

#### (1) インターン研修事業

工芸の分野について1大学院計1人の研修生を受入れた。内容は館蔵・寄託の収蔵品の作品調査・整理業務を学芸員とともに実施した。

#### (2) 博物館実習

実習生として20校から40名の大学生を6月28日(金)～7月5日(金)の6日間受け入れて博物館実習を実施した。特別展「全関西美術展」に関する補助作業の実習、および工芸や書画の作品の取り扱いなどの講義・実習のカリキュラム内容で実施した。

#### (3) 記念講演会など(合計38回、総参加者数2,649人)

##### ・特別展「山の神仏展」

講演会 計4回実施、外部講師3回、当館学芸員1回

合同シンポジウム(あべのハルカス美術館) 1回実施、外部講師3名

##### ・特別展「第60回全関西美術展」

審査員(5部門5人)による審査講評を授賞式とともに実施した。

##### ・特別展「こども展」

講演会 計3回実施、館長3回

##### ・特別展「うた・ものがたり展」

講演会・文化セミナー 5回実施、外部講師4回、当館学芸員1回

学芸員による見どころトーク 3回実施、当館学芸員3回

##### ・特別陳列「田万コレクション展」

講演会・美術講座 計3回実施、外部講師1回(2名)、当館学芸員2回

学芸員による見どころトーク 2回実施、当館学芸員2回

##### ・改組新第1回日展 出品地元作家16人による作品解説を16回実施した。

#### (4) 普及イベント（合計 2 回）

- ・特別展「山の神仏展」

声明法要をロビー・展示室回廊にて 5 月 5 日（月祝）に実施した。

- ・特別展「改組新第 1 回日展」

日展作家プレゼント抽選会 地元作家提供によるプレゼント抽選会を 5 回実施した。

（抽選券配布合計 750 枚）

### 5. 学校・市民等との連携

#### (1) 小学校・中学校の鑑賞授業

特別展「こども展」で小学校 5 回 372 人、中学校 2 回 249 人、計 7 回 621 人の学校体験学習を行って、それぞれの学校の教諭と当館学芸員により鑑賞授業を実施した。

この内、学校連携として、吉野小学校（9 月 12 日）、塚本小学校（10 月 1 日）、瓜破東小学校（10 月 3 日）、3 校の鑑賞授業を行った。

#### (2) 障がい者特別鑑賞会

三菱商事株式会社と連携し、普段なかなか美術館等に行きづらい障がいの方々がゆっくりと鑑賞できる特別鑑賞会を特別展「こども展」開催時の 9 月 27 日（土）に行い、70 名の参加を得た。

#### (3) なにわの日記念コンサート

美術館の地元、浪速区のイベントの一環として、7 月 27 日（土）に第 19 回うえまちコンサートを開催し、160 名の参加を得た。

#### (4) なにわの日記念ジャズコンサート

美術館の地元、浪速区のイベントの一環として、1 月 31 日（土）のジャズコンサートを開催し、280 名の参加を得た。

#### (5) 美術館へ行こう

・「春の親子写生会」を 5 月 3 日（土）に行い、30 人の参加を得た。

・夏休みに小中学生を対象とした絵画などの教室を 7 月 24 日（木）～26 日（土）と 7 月 30 日（水）～8 月 1 日（金）の 2 回開催し、それぞれ 8 人、22 人の参加を得た。

・冬に大人向けの「石膏デッサン公開講座」を 12 月 25 日（木）～27 日（土）に開催し、13 人の参加を得た。

### 6. 情報発信、広報宣伝

ホームページに展覧会の見所や展覧会場の写真などを掲載し、即時性のある情報を提供して、展覧会情報等をやさしく説明しながら案内ができるよう努めた。

平成 26 年度の美術館ホームページへのアクセス件数は、603,141 件であった。

展覧会のポスター掲示やチラシの設置を、様々な広報協力をいただいているあべの地下街等の民間施設、及び各美術館・博物館に依頼し実施している。また、市営地下鉄の公共広報板への広告の掲出も行った。さらに、新聞社、放送局と連携し、新聞への記事掲載やテレビ放映にも努めた。

特別展ごとにマスコミの学芸部・文化部などに案内を送り、開会式の前に報道内見会を開

催して、それぞれの展覧会の特質と見どころをギャラリートークなどにより行い、展覧会の広報宣伝の依頼を行った。

また、グーグルアートへの作品画像の提供により美術館の優れたコレクションを世界にアピールすることができた。

## 7. 来館者サービスの向上

天王寺ゲートから美術館への案内表示やJR天王寺駅の美術館案内看板の設置等、美術館へのアクセスを分かりやすくした。また、館内のトイレ、ロッカー、休憩場所の矢印案内等を増やして来館者により親切な案内板の設置を心がけるとともに、お客様のニーズをくみ上げて、受付での荷物の預かりや障がいの方の館内案内等を、必要があれば即時実践して、財団ならではのサービスを実施してきた。

## 8. 施設の維持管理

警備・清掃・設備管理及び保守点検を外部委託し、安全・快適な施設の維持管理に努めている。職員による日常的な安全点検も励行した。

経年による設備関係の老朽化が進み、大阪市とも連携しつつ維持管理にあたっている。本年は屋上防水工事などを実施し対応を図った。一方で、平成26年末には扉の脱落事故が発生し、大阪市と協議しながら復旧に関して対応した。

## 9. 友の会

友の会ニュースを6回発行し、野外写生会を7回、基礎講座を5回開催した。また、友の会の展覧会として、7月15日から7月20日に夏季展、第50回友の会展を1月20日から1月25日のそれぞれ6日間開催した。

今年度の会員は516人で、昨年度から49人の減となった。

## 10. 美術研究所

美術研究所は、関西を基盤として活躍している質の高い画家が講師として日々の指導を行っている。

絵画コンクールを6回、研究所展覧会を1回、絵画作品批評会を2回、ジョイントセミナーを4回開催し、「美術館へ行こう」として小中学生を対象とした絵画教室を2回、親子を対象とした写生会を1回、大人を対象とした絵画教室を1回開催し、合計73名の参加を得た。入所検定は4月、7月、9月、1月を行い、計35名の入所者があった。

その結果、平成26年度研究生は141人となり、前年度より3人減となった。

## 7 大阪市立東洋陶磁美術館管理運営事業

平成 26 年度特別展として「IMARI／伊万里 ヨーロッパの宮殿を飾った日本磁器」を開催し、日本初公開の当館館蔵品を中心に、17 世紀中頃から 18 世紀中頃の約 100 年間、オランダ東インド会社によりヨーロッパに輸出された伊万里磁器約 190 作品を紹介した。ヨーロッパの王侯貴族の宮殿や邸宅を飾ったヨーロッパ向けの華やかな伊万里焼は、日本人にはかえって新鮮な驚きを持つものとなり、世界の IMARI の魅力を再発見する好機となった。

また、特別企画展「蓮—清らかな東アジアのやきもの×写真家・六田知弘の眼」では、東アジアのやきものに描かれた蓮の文様に焦点をあて、その清らかな美しさとそこに託された庶民的な願いを、館蔵品約 60 点によって紹介した。古美術をはじめ様々な事象を撮影する写真家・六田知弘（むだともひろ）氏の蓮の写真約 50 点とともに展示し、東洋のやきものと現代の写真の両面から、蓮の新たな魅力を引き出した。現代写真とのコラボレーションによりこれまでにない視点から館蔵品に光をあてることができ、新たな方向性を示す展示となった。

### 1. 資料の収集、保管事業

芸術的あるいは資料的価値の高い作品の寄贈受入について推進し、館蔵品の寄附が計 5 件（作品数 29 点、評価額 1,699 万円）あった。

さらに、展示事業や調査研究用として、東洋陶磁その他美術に関する書籍等を収集した。

### 2. 展示事業

#### (1) 常設展示（平常展示）

安宅コレクションの中国陶磁・韓国陶磁、季秉昌コレクションの韓国陶磁、日本陶磁の中から代表的作品を中心に約 300 点をそれぞれ陶磁史の流れに沿って展示した。

（平成 26 年 4 月 12 日～11 月 30 日）

また、常設展示に変化と多様性を持たせるため寄贈作品を中心に約 20～30 点をテーマ・ジャンルごとに企画構成する特集展示を次のとおり開催した。

「高田コレクション ペルシアの陶器—オリエントの輝き」

（平成 26 年 4 月 12 日～7 月 27 日）

#### (2) 企画展示

特別企画展「蓮—清らかな東アジアのやきもの×写真家・六田知弘の眼」

（平成 26 年 4 月 12 日～7 月 27 日、開催日数 93 日、入館者数 22,913 人）

東アジアの各地で蓮ほど広く愛され、器物や建築をさまざまに飾ってきた植物は、それほど多くない。本展は、「蓮」をキーワードにして館蔵品 64 点を中心に文様の変遷を整理し、その意味を読み解くとともに、写真家・六田知弘氏の写真約 50 点を同時に展示することによって、あらためて蓮を見つめ直そうとする試みである。来館者アンケートによると、91.6%が満足と回答し、「写真とのコラボレーションが面白く、いつもの展示と違って楽しめた」、「古の人々が花に託した思いが感じられる」など新しい展示方法や「ポスター・デザインが魅力的である」といった多くの好意的なコメントが寄せられた。

また、図録の評判もよく閉幕直前に完売した。なお、大阪市立自然史博物館所蔵の蓮の標本7件を借用し、参考資料としてあわせて展示した。

### (3) 特別展示

#### 特別展「IMARI／伊万里 ヨーロッパの宮殿を飾った日本磁器」

(平成26年8月16日～11月30日、開催日数91日、入館者数33,892人)

※台風により1日臨時休館

17世紀初頭、肥前国（現在の佐賀県、長崎県）の有田一帯において、日本で最初につくられた磁器は、「伊万里」の名で知られている。伊万里は17世紀中頃からオランダ東インド会社（VOC）によりヨーロッパなど海外に輸出された。ヨーロッパ向けに輸出された伊万里には、特別の注文によってヨーロッパ風にアレンジされた作品も多く見られ、往時のヨーロッパの華やかな生活文化の一端をしのぶことができる。

本展では、日本初公開となる当館所蔵の輸出用伊万里を中心に、サントリー美術館や佐賀県立九州陶磁文化館の所蔵品を加えた約190作品により、ヨーロッパの宮殿を飾ったIMARI／伊万里の魅力を紹介した。来館者アンケートによると、約90%が満足という結果で、「モダンな柄が、とても素敵」、「伊万里焼の国際的な側面を知ることができた」などの意見があった。また、ビデオコーナーや初めての試みとなった記念撮影コーナーも大変好評であった。

### 3. 調査研究事業

展示事業に関する調査研究として、高麗青磁の作品や資料の調査、蓮花文に関する韓国・中国陶磁の作品や資料の調査、海外に輸出された伊万里磁器の作品や資料の調査をそれぞれ実施した。

また、韓国陶磁調査研究事業では「中後期高麗青磁の研究」をテーマとして韓国や中国の出土資料や窯址等の調査を行った。さらに、中国や日本から出土する高麗青磁の様相を東アジア海域史の中に位置付けるため、その資料を調査し公開講座を実施した。

なお、外部資金による研究では、科学研究費補助金計2件（計195万円（間接経費含む））と出版助成として研究成果公開促進費1件を獲得した。

### 4. 教育普及事業

#### (1) 講演会等の実施

展覧会の内容の理解や、調査研究の成果を還元するため講演会、講座、研究会等を開催した。

##### ① 講演会

- ・「古伊万里様式の美の秘密」鈴田由紀夫氏（佐賀県立九州陶磁文化館・館長）他計2回、参加者計170人
- ・「蓮展にちなんでーものをみる眼」清水穣氏（同志社大学教授）他計4回、参加者計151人

## ② 講座

- ・記念講座「西洋宮廷の磁器陳列—古伊万里をめぐる絢爛の世界—」櫻庭美咲氏（国立歴史民俗博物館・研究部・機関研究員）、計 53 人
- ・李秉昌博士記念公開講座 8 「東アジア海域と高麗青磁 I」張東翼氏（韓国慶北大学校・教授）、山内晋次氏（神戸女子大学・教授）、彭善国氏（中国吉林大学・教授）、鄭銀珍（当館学芸員）参加者計 139 人

## ③ 連続レクチャー

- ・「展覧会の開催にあたって—ドイツ・オランダ調査報告」小林仁（当館主任学芸員）  
他計 3 回、参加者計 74 人

## ④ 学芸員による見どころガイド

- ・特別展「IMARI／伊万里 ヨーロッパの宮殿を飾った日本磁器」小林仁（当館主任学芸員）計 5 回、参加者計 204 人

### (2) ボランティアによるガイド事業

企画展の会期中、土・日・祝日の午前と午後にボランティアによるギャラリーガイドを行った。計 61 回、参加者計 1,030 人

また、平日については、団体見学者の入館に際しガイド予約のあった場合にギャラリーガイドを実施した。計 19 回、参加者計 345 人

このボランティアガイド登録者 36 名に対し、ガイド事業の充実を図るため、展覧会ごとに学芸員が研修を行っている。

## 5. 各種団体との連携

協会の各館・所との連携強化を図るとともに、各種団体、学校等との連携により、効果的な広報活動と入館者へのサービスの充実を図った（ポスター、チラシ、パンフレットの交換設置、掲載協力、相互情報提供等）。また、中央公会堂、中之島図書館、国立国際美術館、国際会議場等と連携し、水都大阪、中之島まつりなど中之島地域の活性化につながるイベントにも協力した。

## 6. 他の博物館等との連携

国内外の美術館、博物館、研究機関等との多角的な連携による共同研究、展覧会の共催、シンポジウム・研究会の開催等の事業協力を実行した。

- ① ベルリン国立アジア美術館への長期貸出の継続
- ② 韓国・国立中央博物館への貸出
- ③ 東京国立博物館への貸出
- ④ 東京国立近代美術館への貸出 等

## 7. 情報発信・広報宣伝

ホームページのデザイン、情報発信項目等を全面的にリニューアルし、平成 26 年 10 月 1 日より新規運用開始した。館案内パンフレット、年間展示予定、ポスター・チラシ、マス・メディアの活用などにより、東洋陶磁美術館の活動を広く周知した。グーグル・アートなど

との提携により、優れたコレクションを世界に向けて情報発信した。

そのほか、入館者に対するアンケート調査を展覧会ごとに実施し、入館者のニーズを把握して事業に反映するとともに、効果的な情報提供、広報活動等に活かした。

## 8. 来館者サービスの向上

大阪市による外壁改修工事休館中に、館内サイン類の見直しを図り、わかりやすくかつ美術館としての品位を保った新規デザインを導入した。

さらに、平常展のキャプションのデザインを一新するとともに、大型化し、英文解説を併記するなど、見やすくわかりやすい、観覧者に配慮した展示環境作りを行うなど、受付窓口に寄せられる要望やアンケート調査結果などをもとに、市民の生の声を的確に美術館運営や展覧会に反映させ、来館者のサービスの向上に努めた。

## 9. 施設の維持管理

入館者が安全かつ快適に施設を利用できるよう、建物設備の維持保全をはじめ、電気、機械設備などの定期点検等を実施し適切な維持管理に努めた。

また、経年劣化等により不具合が生じていた展示室扉や自動ドアの修繕などを行うとともに、学習ルームの美装化や休憩室のソファーの更新を行い来館者サービスの向上を図った。

警備・清掃及び設備等の保守点検を外部委託し、安全・快適な施設の維持管理に努めた。職員による日常的な安全点検も励行し、職場安全衛生委員会の職場巡視も行っている。防災対策では、館職員だけでなく、警備、設備、看護・受付などの業務委託従事者や喫茶の従事者も一体となって避難訓練を実施し、有機的かつ効果的な防災体制の充実を図った。

## 10. 出版等事業

展覧会図録（特別展「IMARI／伊万里 ヨーロッパの宮殿を飾った日本磁器」、特別企画展「蓮—清らかな東アジアのやきもの×写真家・六田知弘の眼」の製作販売を行い、継続的に館蔵品図録（「東洋陶磁の美」、「堀尾幹雄コレクション濱田庄司」、「掌中の美 沖正一郎コレクション鼻煙壺」など）やミュージアムグッズの販売を行った。

## 11. 友の会事業

講演会、研究会、研修や「友の会通信」の発行などを通して会員へ東洋陶磁に関する情報提供等を行う一方、美術館の利用促進や普及活動などに会員の協力を求めるなど相互連携を図った。

## 8 大阪城天守閣管理運営事業

昭和 6 年に大阪市民の寄付によって復興された大阪城天守閣は、大阪はもとより日本の文化観光のシンボルという特徴を備えた歴史博物館である。平成 26 年は「大坂の陣 400 年」の 1 年目にあたり、大坂の陣に対する市民の関心を高めるため、大坂の陣 400 年プロジェクトに取り組み、秋に「浪人たちの大坂の陣」、春に「豊臣と徳川」の 2 つの『大坂の陣 400 年記念特別展』を開催した。さらに季節ごとの様々なイベントなどを展開した。またこれらへの集客を促進するため、幅広い情報提供や広報宣伝にも力を入れた。その結果、昨年来のアジア地域を中心とした外国人観光客の増加もあり、183 万人もの入館者を迎えることができた。これは、27 年度経営目標や、平成の大改修直後の平成 9 年度をも凌いだ前年度に比しても 18.2 パーセント増であった。

### 1. 資料の収集、保管事業

今年度、資料の収集はなかったが、保管事業として、昨年度、着手した所蔵品の「関ヶ原合戦図屏風」(6 曲 1 双) の修理が完了した。

### 2. 展示事業

#### (1) 常設展示

2 ヶ月を目途に文化財展示を全面的に更新し、そのつど 3 階・4 階のフロアごとに、新しいテーマの展示を立案した。大坂の陣に至る戦国の世の野戦籠城戦に注目した「野戦と籠城戦」、乱世のいくさ場を彩った武将たちの戦国トレンドファッショニズムに注目した「大阪サムライコレクション」など、年間 8 本のテーマで展示した。また、26 年正月の登場から人気沸騰の復活門付芸 “ちょろけん” と大阪城との意外な因縁がうかがえる「ちょろけん登場！」のミニ展示コーナーを設けた。

#### (2) テーマ展

##### ① 「乱世からの手紙—大阪城天守閣収蔵古文書選一」

(平成 26 年 3 月 21 日～5 月 6 日)

大阪城天守閣が収蔵する戦国武将発給文書の内、乱世の諸相が読みとれる内容豊かなもの 84 点を参考資料とともに展示した。くずし字の読みをパネルで示すなど、古文書のおもしろさや迫力、奥深さをわかりやすく紹介した。平成 26 年度会期中 227,764 人の来館者を迎えた。

#### (3) 特別展

##### ① 大坂の陣 400 年記念特別展「浪人たちの大坂の陣」

(平成 26 年 10 月 11 日～11 月 24 日)

大坂の陣を戦った有名無名の浪人の動向に注目し、多彩な資料を用いて彼らの活力あふれる生きざまに迫った。あわせて浪人をめぐる幕府の諸政策、残された家族や子孫などの動きにも注目し、当時の社会状況を浮き彫りにした。会期中 270,155 人の大盛況であった。

## ②大坂の陣 400 年記念特別展「豊臣と徳川」

(平成 27 年 3 月 21 日～5 月 10 日)

400 年前、慶長 20 年 (1615) の大坂夏の陣で大坂城は徳川軍に攻め落とされ、豊臣家は滅亡した。豊臣と徳川の最終決戦にいたるまでには、秀吉生前以来の長く、複雑な両家の関係史が存在する。その過程では、徳川家が豊臣政権下での安泰を望んだ時期もあれば、豊臣家が徳川政権下で存続する可能性を模索した時期もあった。そうした歴史に目くばりしつつ、当時の一級資料によって大坂の陣の意義をさぐり合戦の実像に迫った。平成 26 年度会期中 (11 日間) 98,194 人

1 日平均 9,000 人という来館者を迎えた好評だった。

## 3. 調査・研究事業

「豊臣時代資料・史跡調査」として、鹿児島県鹿児島市および南九州市にて、大坂の陣後の豊臣秀頼薩摩落ち伝説にちなむ伝豊臣秀頼墓所および伝真田幸村墓所を調査した。また「徳川時代大坂城関係資料調査」として、兵庫県豊岡市にて同市所蔵の大坂城在番関係資料の調査を実施した。

## 4. 普及事業

### (1) 教育普及

大阪城内や大阪市内外で開催された講演会・シンポジウム・史跡見学会等へ積極的に講師を派遣し (51 件)、歴史や資料に関する知識の普及をはかった。

また、館内に兜・陣羽織 (レプリカ) の試着体験コーナーを設け、希望者 (年間を通じて約 5 万 9 千人) に体験の機会を提供した。

### (2) 資料の活用・普及

収蔵品や関連資料の写真を作成管理し、公共機関や研究者、出版・放送関係機関等からの掲載や複製作成、商品化の要望に応じ積極的に提供することで、資料の普及に努めた。写真資料の提供数は 664 件 2,207 点におよんだ。

他の博物館施設等からの文化財貸出依頼に対しては 30 件 159 点に応じ、展覧会の企画や展示指導等に関する「特別協力」依頼に対しては 2 件に応じた。その内、フランスのブルターニュ大公城 (ナント歴史博物館) において開催された特別展「SAMOURAI 1000ANS D'HISTOIRE DU JAPON (サムライ—1000 年の日本史)」(平成 26 年 6 月 28 日～11 月 11 日) に対して行った特別協力は、企画段階から同館と協議を重ね、20 点を越える所蔵資料の選定と出品、展示・撤収指導を行った。同展は日本の武家文化を扱ったフランスにおける過去最大規模の展覧会として大きな反響を呼び、これによりフランス国内で大阪城天守閣ならびにその収蔵品を周知し、両施設の友好を深めることができた。

展覧会図録、名品絵はがき、館蔵品目録、大阪城の案内書等を作成し、頒布した。

## 5. 学校・市民等との連携

博物館学実習として 7 月 28 日から 8 月 1 日の 5 日間にわたって、4 校から 9 名の大学生を、

また、中学生の職場体験は4校から11名の受入を行った。

さらに、市内の小・中学校と連携して「大阪城絵画展」を開催した。

○「第43回大阪城絵画展」(平成27年1月1日～1月31日)

大阪の将来を担う幼稚園児・小学生・中学生が大阪城を大阪の誇りに思い、憩いの場としてより一層親しむと同時に、大阪の歴史・文化についての理解を深めることができよう、大阪市内の市立幼稚園、小・中学校と連携し、大阪城の絵画を募集して入選作品を展示した。

上記の他、地域・市民団体や企業、大阪城公園内および周辺イベント(大阪シティウォーク2014、KANSAI ウォーク 2014、大阪城サマーフェスティバル 2014 他)などと連携し、企画協力や相互広報・相互入場割引などの実施により、集客効果を高めた。

また、中央区民まつりに協賛・広告掲載するなどより多くの集客に努めた。

## 6. 情報発信、広報宣伝

国外の観光客が増加する中、大阪を代表する文化・観光施設にふさわしい特別展、テーマ展及びイベント等を実施するとともに、ホームページ(訪問者数137万件/年・ページビュー数400万件/年)・ポスター・チラシ・リーフレット(日本語、韓国語、中国繁体字、中国簡体字、英語の各言語別及び子ども向け)・マスマディア等をとおして、また、グーグルマップのストリートビューに天守閣内部を公開するなど、幅広い効果的な情報発信・広報宣伝を行うことにより、一層の集客力の向上に努めた。リーフレットは「大坂の陣400年」に合わせて、約9年ぶりにリニューアルし公園地図や掲載写真などの情報を刷新した。

## 7. 来館者サービスの向上

改札・インフォメーションにおける外国語対応及び音声ガイドコンテンツの拡充ならびにリーフレット、館内サイン、文化財展示解説などの外国語表記にとりくみ、館内案内の充実を図った。また、22年度より導入した大阪歴史博物館とのセット入場券については両館で約33千枚を販売した。さらに夏のドライミストの設置に努めるなど、来館者サービスに努めた。

## 8. 施設の維持管理

改札・案内・警備・清掃・昇降機の運転業務を業務委託により実施するとともに設備等の定期的な保守点検を実施し安全で快適な施設の維持管理に努めた。

また、売店空調機の更新、3階展示室や改札付近の死角を防ぐため、監視カメラ増設を行った。

## 9. 自主事業

### (1) 史跡の活用・普及事業

大阪市が実施した城内古建造物の特別公開に協力したほか、訪れた人々が大阪城や大阪の歴史・文化を身近に感じていただけるようなイベントを季節ごとに開催し、「大坂の陣400年」を盛り上げ、大阪城の魅力を高めるとともに集客に努めた。

## ①イベント

- a. 「大阪城ファミリーフェスティバル 2014」(平成 26 年 5 月 3 日～5 月 5 日)
- b. 「天守閣の夏」(平成 26 年 7 月 20 日)
- c. 「大阪城天守閣の秋まつり」(平成 26 年 11 月 2 日～11 月 3 日)
- d. 「迎春イベント」(平成 27 年 1 月 2 日～1 月 3 日)

## ②姉妹城・友好城郭連携事業

長浜城との姉妹城連携事業として、昨年に引き続き天守閣前に長浜城の看板を設置するとともに、長浜城歴史博物館の特別展への出品や両城で互いの半券による入館割引を実施した。

## ③大坂の陣 400 年プロジェクト

2014 年に「大坂の陣 400 年」を迎えるにあたり、昨年度に引き続き大阪城を中心に関係先にのぼりを設置するとともに、大坂の陣【読本】2巻や大坂の陣カレンダー2015 を制作、配布した。また、冬の陣終結から 400 年目となる 12 月 22 日には天守閣の登閣証明書を発行するとともに大坂の陣ポスター「大坂の陣開戦前夜」「慶長一九年冬の陣」を作成掲示したところ大好評を得た。大阪市立中央図書館や各図書館に、大坂の陣と武将たちに関連した図書の展示を呼び掛け、実現した。さらに、各新聞・テレビ・ラジオにも大坂の陣 400 年への取組を働きかけ、幾つものテレビ番組や記事掲載を実現した。

また、夏の陣から 400 年にあたる 2015 年の幕開けとして 1 月 1 日を臨時開館し「大坂の陣 400 年」を盛り上げた。

## (2) 大阪城天守閣売店の運営

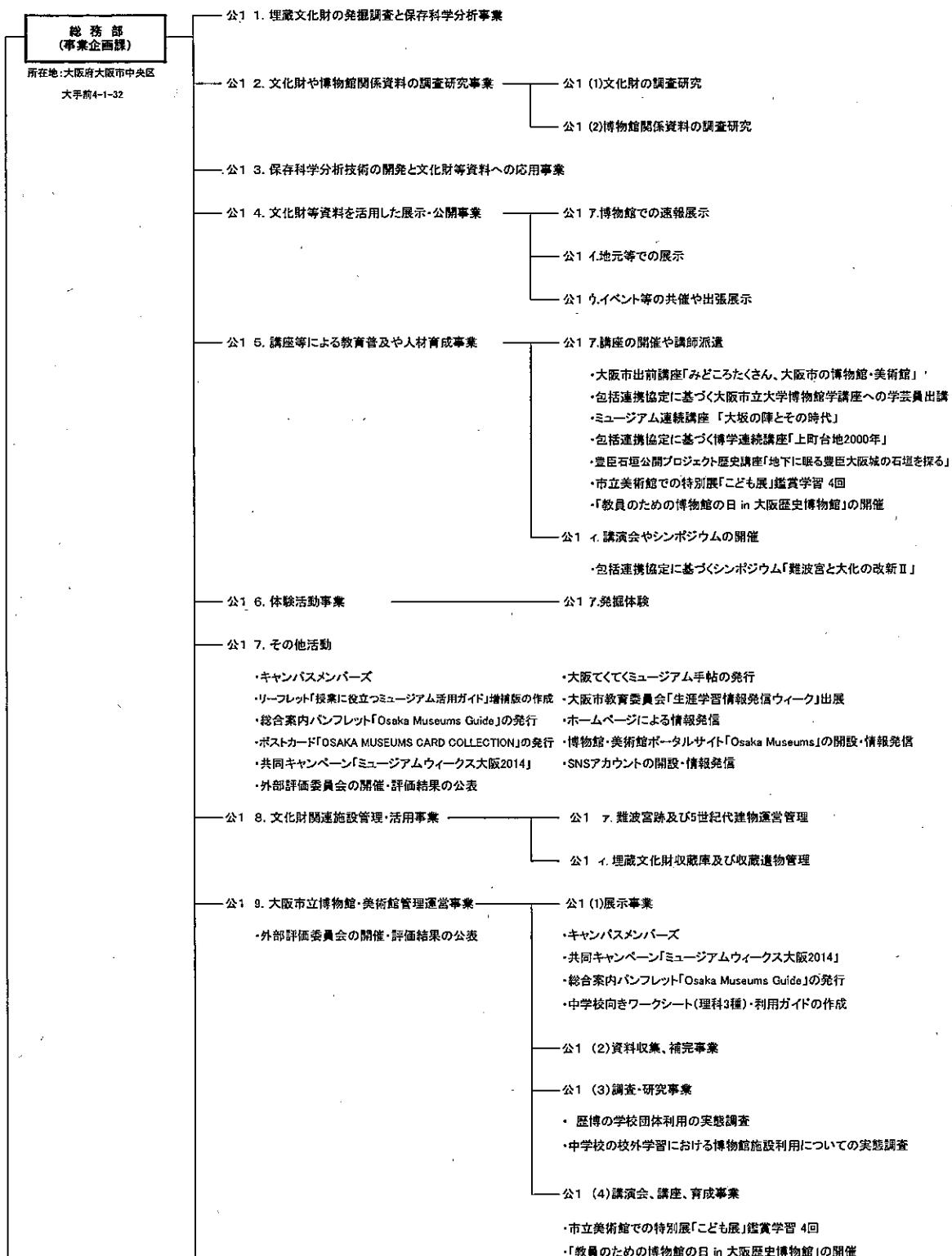
天守閣売店は、毎月売店会議を開催し効率の良い運営及び経費削減に努めるとともに、ホームページを活用し、季節ごとの売れ筋商品を紹介する等広報活動を充実させ収入確保に努めた。また、好評の「大坂の陣 400 年」のポスターの販売を実施した。

平成26年度[実施事業・公益事業対象表]

1. 総務部(事業企画課)

各館所との連携について									
1	2	3	4	5	6	7	8	9	
当協会公益事業等の一覧  事業報告書の事業名	埋蔵文化財の発掘調査と保存科学分析事業	文化財や博物館関係資料の調査研究	保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用	講座等による教育普及や人材育成事業	体験等活動事業	その他活動事業	公1イア美術館及び5世紀代建築遺物管理	大阪市立博物館・美術館管理運営事業	公1イア美術館及び5世紀代建築遺物管理
1. 「大阪の陣400年天下一祭」への参加 共同キャンペーン「ミュージアムウイークス大阪2014」※ ミュージアム連続講座「大阪の陣とその時代」※ (※は下横の事業と並び)	公1(1)文化財の調査研究	公1(2)博物館関係資料の調査研究	公1(3)埋蔵文化財等を活用した展示・公演や出張展示	公1(4)イア美術館等の開催	公1(5)学校等を対象として美術制作体験	○	○	○	全館
2. 大学・学校等との連携 キャンパスンバース 包括連携協定に基づく大阪市立大学博物館学講座への学生員出講 包括連携協定に基づくシンボジウム「難波宮と大化の改新Ⅱ」 包括連携協定に基づく博学連携講座「上町台地2000年」 大阪歴史博物館の学校団体利用の実態調査 市立美術館での特別展「ことども展」鑑賞学習 4回 「教員のための博物館の日 in 大阪歴史博物館」の開催 リーフレット「授業に役立つミュージアム活用ガイド」増補版の作成	公1(1)文化財の調査研究	公1(2)博物館関係資料の調査研究	公1(3)埋蔵文化財等を活用した展示・公演や出張展示	公1(4)イア美術館等の開催	公1(5)学校等を対象として美術制作体験	○	○	○	全館
3. 法人の情報発信 ホームページによる情報発信 博物館・美術館ポータルサイト「Osaka Museums」の開設・情報発信 SNSアカウントの開設・情報発信						○	○	○	全館
4. 点検評価 外部評議委員会の開催・評価結果の公表						○	○	○	全館
5. 共同広報事業・共同キャンペーン 共同キャンペーン「ミュージアムウイークス大阪2014」の実施※ 大阪でくぐるミュージアム手帖の発行 総合案内パンフレット「Osaka Museums Guide」の発行 ポストカード「OSAKA MUSEUMS CARD COLLECTION」の発行 大阪市教育委員会「生涯学習情報発信ウィーク」出展						○	○	○	全館
6. 普及啓発事業 ミュージアム連続講座「大阪の陣とその時代」の開催※ 平成26年度大阪市出前講座「みどころたくさん、大阪市の博物館・美術館」 豊臣石垣プロジェクト歴史講座「地下に眠る豊臣大阪城の石垣を探る」					○	○	-	-	歴史天文 事企画 文・歴
7. 外部資金獲得による事業 中学校の校外学習における博物館施設利用についての実態調査 中学校向きワークシート(理科3種)・利用ガイドの作成					○	○	○	○	全館 自

## 平成26年度 事業・組織体系図

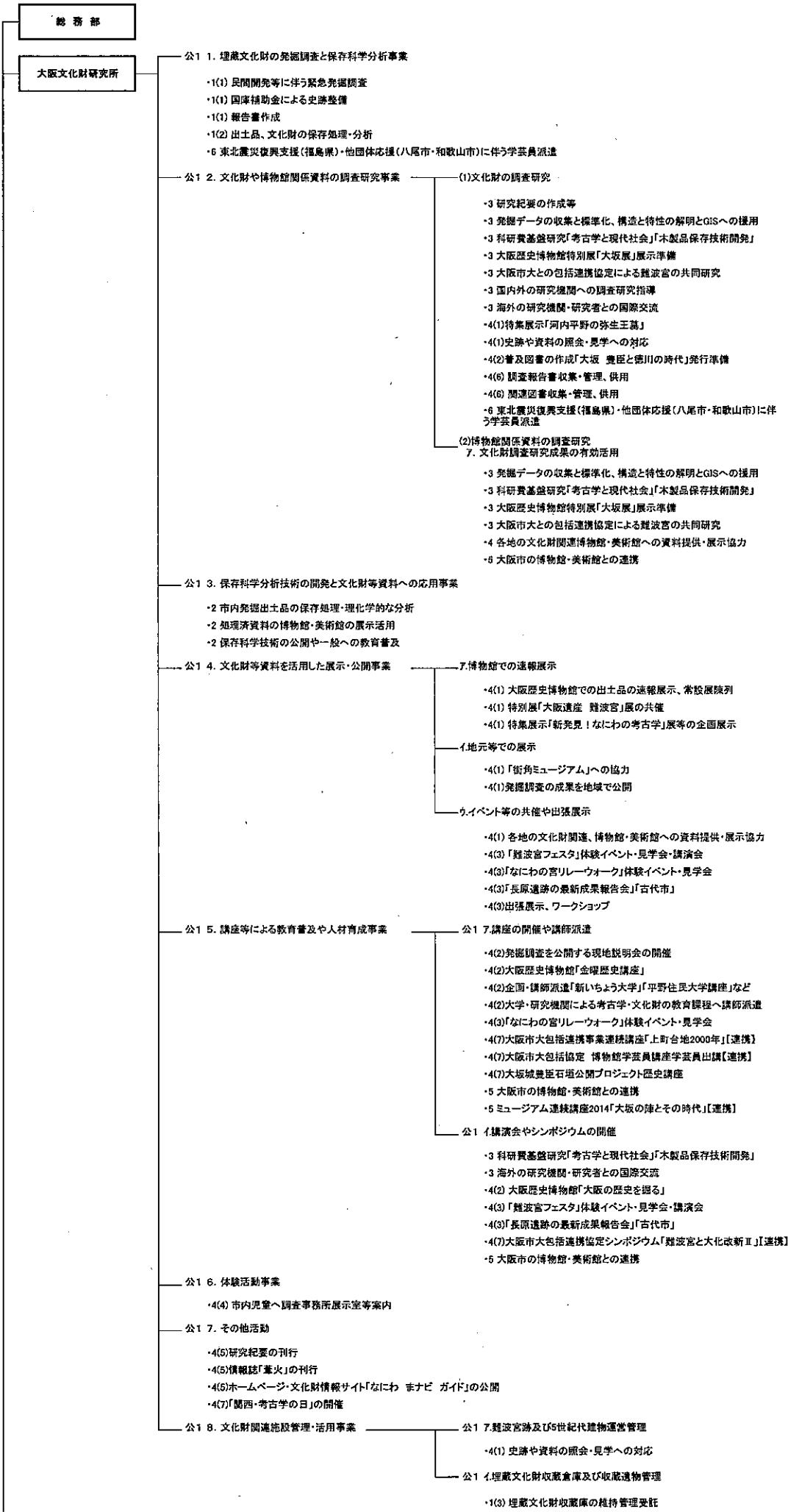


## 平成26年度[公益事業対照表]

### 2. 大阪文化財研究所

事業報告書の事業名	公1							受1	他1
	1	2	3	4	5	6	7		
<b>当協会公益事業等の一覧</b>									
事業報告書の事業名									
1. 墓蔵文化財の発掘調査・報告書作成									
(1) 文化財調査受託事業									
民間開発等による緊急発掘調査	○								
国庫補助金による史跡整備	○								
報告書作成	○								
(2) 保存処理・分析事業									
出土品、文化財の保存処理・分析	○								
(3) 文化財関連施設の管理事業								○	
埋蔵文化財収蔵庫の維持管理業務									
2. 保存科学分析技術の開発と文化財等資料への応用									
市内発掘出土品の保存処理・理化学的分析			○						
処理済資料の博物館・美術館の展示活用			○						
保存科学技術の公開や一般への教科書及			○						
3. 文化財に関する研究									
研究紀要の作成等									
発掘データの収集と標準化、構造と特性の解明とGISへの授用			○						
研究費収益活用による考古学と現代社会「木製品保存技術開発」			○				○		
大阪歴史博物館特別展「大坂城」展示準備			○						
大阪市大との包括連携協定による諸宮の共同研究			○						
国内外の調査研究機関への指導			○						
海外の研究機関・研究者との国際交流			○						
4. 教育・普及事業									
(1) 展示等をはじめとする資料活用									
大阪歴史博物館の出土品の連続展示・常設展示					○				
特別展「大阪道楽 難波宮」の共催					○				
特集展示「新発見！なにわの考古学」展等の企画展示					○				
特集展示「河内平野の弥生王墓」			○						
各地の文化財関連博物館・美術館への資料提供・展示協力			○		○				
「街角ミュージアム」への協力					○				
発掘調査の成果を地域で公開					○				
史跡や資料の開会・見学会への対応			○					○	
(2) 調査等による教育普及や人材育成									
発掘調査を開催する現地説明会の開催									
大阪歴史博物館「金曜鑑賞講座」						○			
大阪歴史博物館「大阪の歴史を振り返る」						○			
音楽団の作成「大坂と堺川の時代」発行準備			○						
企画・講師派遣「新いちょうどう」「平野住民大学講座」など						○			
大学・研究機関による考古学・文化財の教育課程へ講師派遣						○			
(3) 地域と連携したイベント等の共催・出張展示									
「難波宮エスター」体験イベント・見学会・講演会					○		○		
「なにわの宮リレーウォーク」体験イベント・見学会					○		○		
「長原遺跡の最新成果報告会」「古代市」					○		○		
出張展示・ワークショップ					○				
(4) 体験活動事業									
市内児童へ講習事務所展示室等案内						○			
(5) 稽報発信									
HPの充実、各種情報発信							○		
研究紀要の刊行								○	
情報誌「薪火」の刊行								○	
ホームページ・文化財情報サイト「なにわ マナビ ガイド」の公開								○	
(6) 開運料の収集・管理									
調査報告書収集・管理、供用					○				
開運回数の収集・管理、供用					○				
(7) 情報発信との連携									
「関西・考古学の日」の開催									
大阪市大包括連携事業連携講座「上町台地2000年」【連携】							○		
大阪市大包括連携協定シンポジウム「難波宮と大化改新II」【連携】							○		
大阪市大包括連携協定・博物館学芸員講座学芸員出講【連携】							○		
大坂城豊臣石垣公開プロジェクト歴史講座							○		
5. 博物館・美術館との連携									
大阪市の博物館・美術館					○			○	
ミュージアム連続講座2014「大阪の陣とその時代」【連携】							○		
共同キャンパス・ミュージアム・ワールクス大阪2014】【連携】							○		
6. 東北震災復興支援(福島県)・仙台本拠地(八戸市・和歌山市)に伴う芸術派遣	○	○							

## 平成26年度 事業・組織体系図



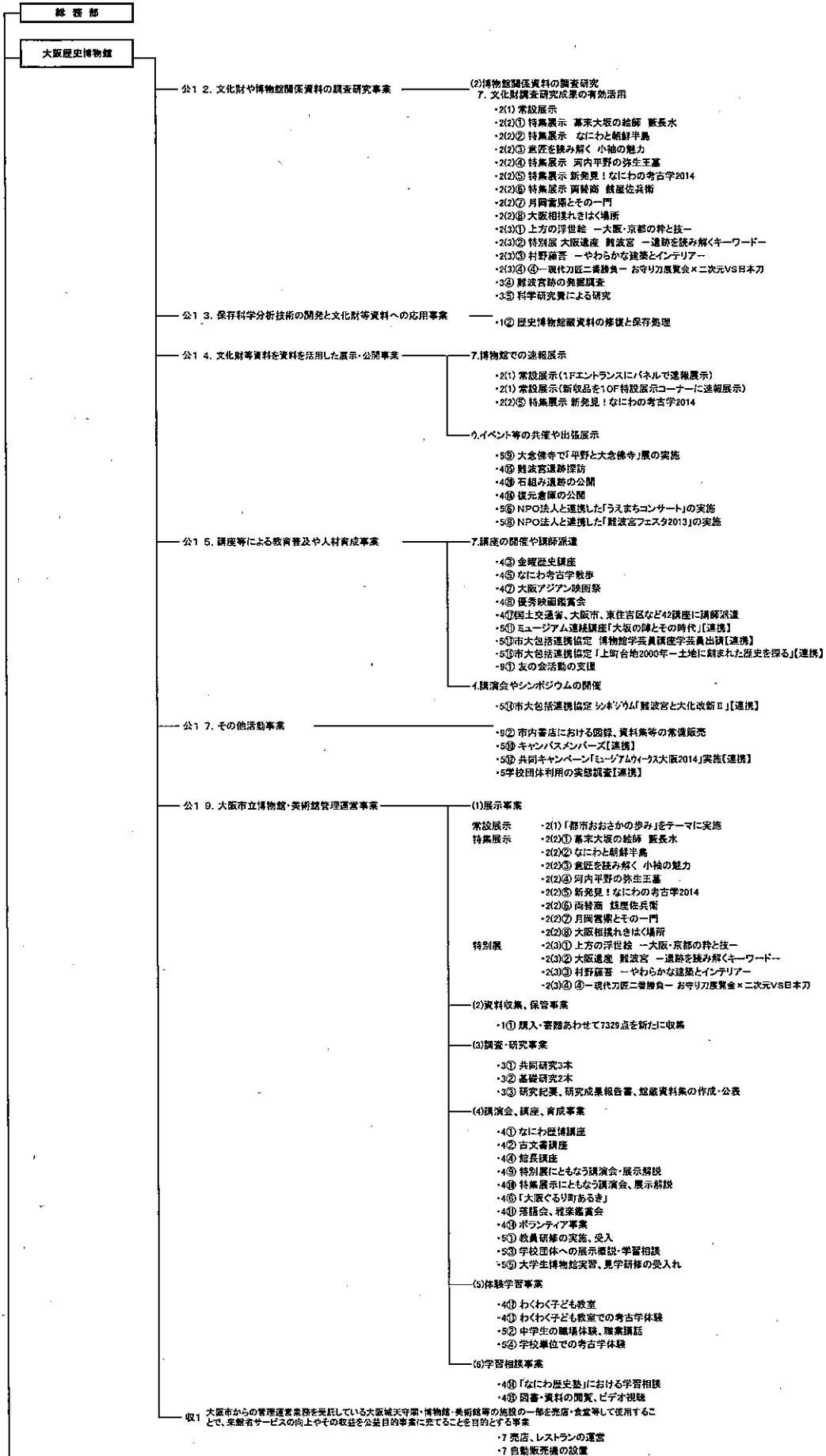
平成26年度[公益事業対照表]

3. 大阪歴史博物館

当協会公益事業等の一覧		公1							收1		位1	
事業報告書の事業名		(1) 展示事業	(2) 資料収集・保管事業	(3) 調査・研究事業	(4) 運営会員事業	(5) 体験学習事業	(6) 学習相談事業	(7) その他活動活動	(8) 文化財監視監理・活用事業	(9) 大阪市立博物館・美術館管理運営事業	(10) 管理運営事業	(11) その他の事業
1. 資料の収集		①購入、寄贈あわせて7,329点を新たに収集 ②既蔵資料の修復と保存処理の実施									○	
2. 展示事業		(1) 常設展示 (2) 特撰展示 ①幕末大阪の経済 武長水 ②なにわの朝鮮半島 ③豪傑を読み解く 小袖の魅力 ④河内平野の出生王墓 ⑤新発見!なにわの考古学2014 ⑥両替商 銭座佐兵衛 ⑦月岡雷門とその一門 ⑧大阪相撲はくば	○	○						○		
(3) 特別展・特別企画展 ①上方の浮世絵 一大阪・京都の特と技 ②大阪遺産 難波宮 一通路を読み解くキーワード ③村野藤吾 一やわらかな建築とインテリア ④現代アート二善勝負 お守り展覧会×二次元VS日本刀		○	○							○		
3. 調査・研究事業		①共同研究 ②基礎研究 ③研究記録、研究成果報告書、館蔵資料集の作成・公表 ④難波宮の発掘調査 ⑤科学研究による研究		○						○		
4. 教育・普及事業・学習支援		①なにわ歴史講座 ②古文書講座 ③金曜夜学講座 ④館長講座 ⑤なにわ考古学散歩 ⑥大阪にさり町あるき ⑦大阪アジア映画祭 ⑧優秀扶養講習会 ⑨特別座にともなう講演会、展示解説 ⑩特集展示にともなう講演会、展示解説 ⑪講習会、研修会 ⑫わくわく子ども教室 ⑬わくわく子生教室での考古学体験 ⑭ボランティア事業 ⑮難波宮遺跡探訪 ⑯復元愈歴の公開 ⑰区役所等への講師派遣 ⑱なにわ歴史塾での学習相談 ⑲なにわ歴史塾での図書・資料の閲覧、ビデオ視聴 ⑳石組み遺構の公開								○		
5. 学校・市民等との連携		①教員研修 ②中学生の実地体験・職業体験 ③学校団体への展示概説・学習相談 ④学校団体での考古学体験教室 ⑤大学生博物館実習・見学研修 ⑥うまちコマース ⑦難波宮フェスティバル ⑧「平野と大念寺」展 ⑨キヤンバスマーベーズ【連携】 ⑩ミージアム連携講座「大阪の陣とその時代」【連携】 ⑪共同キャラクターミュージアム「ウイークス大阪2014」実施【連携】 ⑫市大包括連携協定 博物館学芸員講座学芸員出講【連携】 ⑬市大包括連携協定 シボシム「難波宮と大化改新II」【連携】 ⑭市大包括連携協定「上町台地2000年—土地に刻まれた歴史を扱る」【連携】								○		
6. 情報発信・広報伝伝		HPの充実、各種情報発信								○		
7. 参加者サービスの向上		①レストラン、売店の運営委託 ②自動販売機の設置 案内サインの改善、わかりやすい解説、来館者に配慮した環境作り								○		
B. 連絡の維持管理										○		
9. 友の会 その他自事業		①友の会活動への支援 ②市内書店での図書常備販売								○		

益どきの企画等に對して行う講演会や講座、研究会、見学会等の事業に關する公会な  
大阪市から管理運営業務を委託している大阪城天守閣・博物館へ、事業者を先頭に、公会の  
事業者の一部を委託して行う運営等と目的とする事業者を有する公会の事務所が、同生会な  
者サードパーティの向いやそな取扱を有する公会の事務所に充てることを目的とする事業者を有する公会の事務所

平成26年度 事業・組織体系図

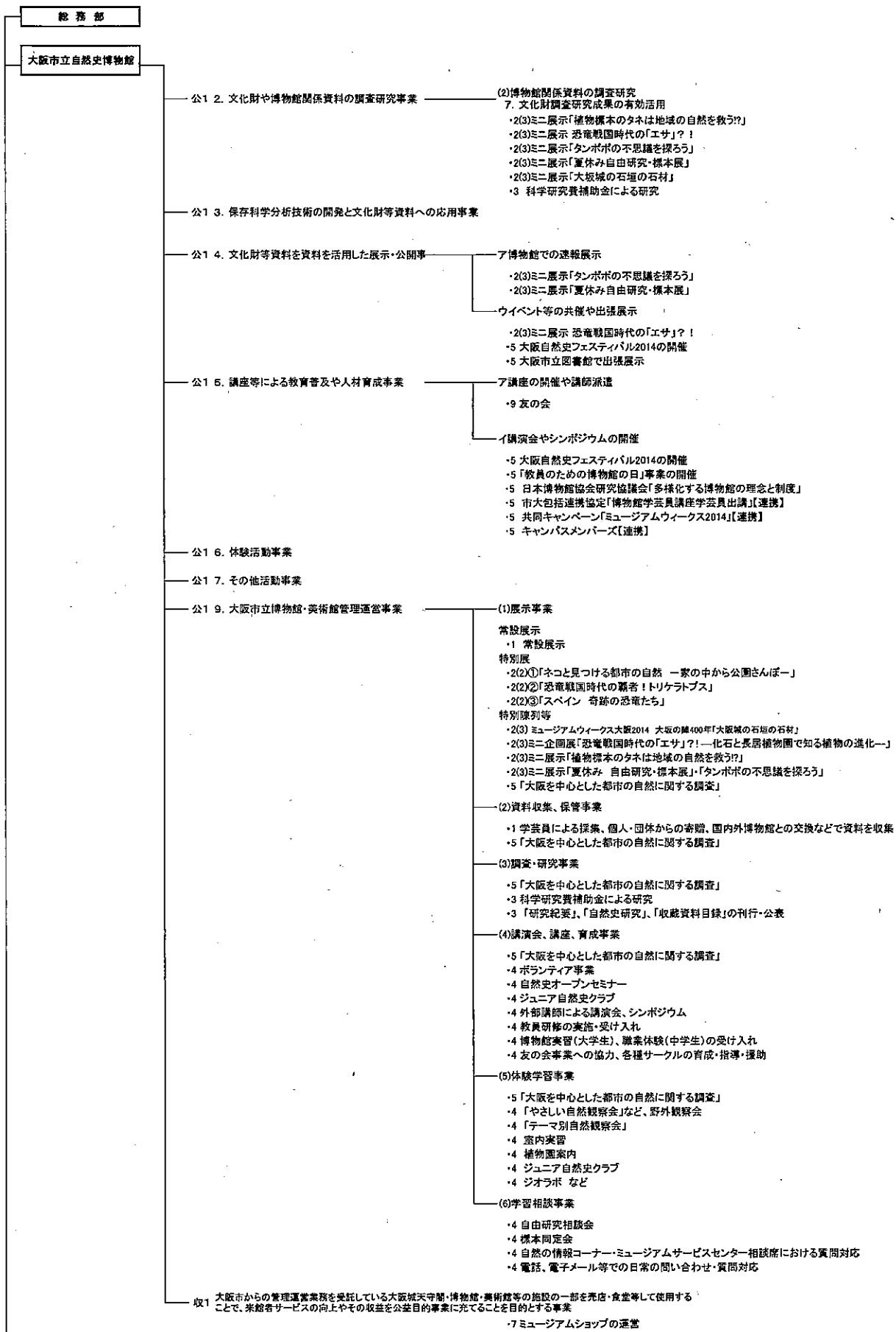


# 平成26年度[公益事業対照表]

## 4. 大阪市立自然史博物館

当協会公益事業等の一覧	公1	取1	社1
事業報告書の事業名	9 大阪市立博物館・美術館運営事業 （1）展示事業 ア、常設展示 （2）資料収集・保管事業 イ、特別展示等	（6）学習支援事業 （5）体験学習事業 （4）講演会・講座・実証事業 （3）調査・研究事業 （2）資料収集・保管事業 イ、埋蔵文化財収集・保管及び收藏施設管理 ア、姫波宮跡及び5世紀代造物収集・保管 文化財関連施設管理・活用事業 （1）展示事業 ア、常設展示 （2）資料収集・保管事業 イ、特別展示等	東南友達などの会員会員に於いて行なはれる活動の全や運営を深め、共通の趣味、見学会、目的、友好会などと、それをもつて、その会員は、その事務所やその店舗の運営を委託する。して、益々多くの会員がより多く来る大阪城天守閣の開催に力を入れることと
<b>1. 資料の収集、保管事業</b> 手帳による採集、個人・団体からの寄贈、国内外他館との交換などで資料を収集		○	
<b>2. 展示事業</b>			
(1)常設展示		○	
(2)特別展示		○ ○ ○	
①「ネコと見つける都市の自然 一家の中から公園さんぽ」		○	
②「恐竜絶滅時代の王者!トリケラトプス」		○	
③「スペイン 奇跡の恐竜たち」		○	
(3)特別陳列等			
ミュージアム・ウイークス大阪2014 大阪の神400年「大阪城の石垣の石材」	○	○	
ミニ展示「植物標本のタキは地域の自然を救う!」～時を超えて発芽する植物標本のタキ～	○	○	
ミニ展示「クンボウの不思議」	○	○	
ミニ展示「恐竜戦国時代の「エサ」?!	○	○	
ミニ展示「夏休み 自由研究・標本展」	○	○	
<b>3. 調査研究事業</b>			
科学研究費補助金による研究 「研究記要」、「自然史研究」、「収蔵資料目録」の刊行・公表	○	○	
<b>4. 教育・普及事業</b>			
「やさしい自然観察会」		○	
「テーマ別自然観察会」		○	
室内実習		○	
植物園案内		○	
ジュニア自然史クラブ		○	
ジオラボなど		○	
ボランティア事業		○	
自然史オープンセミナー		○	
外部講師による講演会、シンポジウム		○	
教員研修の実施・受け入れ		○	
博物館実習(大学生)、職業体験(中学生)の受け入れ		○	
日本博物館協会研究協議会「多様化する博物館の理念と制度」		○	
友の会事業への協力、各種サークルの育成・指導・援助		○	
自由研究相談会		○	
標本同定会		○	
自然の情報コーナー・ミュージアムサービスセンター相談室における質問対応		○	
電話、電子メール等での日常の問い合わせ、質問対応		○	
<b>5. 学校・市民等との連携</b>			
「大阪を中心とした都市の自然に関する講習」		○	
大阪自然史ワーストライル2014		○	
大阪市立図書館で出張展示	○	○	
「教員のための博物館の日」		○	
市大包括連携協定「博物館芸術講座芸術出講【連携】		○	
共同キャンペーン「ミュージアム・ウイークス大阪2014【連携】		○	
キャンパスメンバーズ【連携】		○	
<b>6. 情報発信・広報宣伝</b>			
ホームページの充実、各種情報発信		○	
<b>7. 友の会サービスの向上</b>			
室内サインの改善、わかりやすい解説等、観覧者に配慮した環境作り ミュージアムショップの運営		○	
<b>8. 兵器の維持管理</b>			
<b>9. 友の会</b>			
友の会活動支援	○		

## 平成26年度 事業・組織体系図



収1 大阪市からの整理運営業務を受託している大阪城天守閣・博物館・美術館等の施設の一部を売店・食堂等して使用する  
ことで、来館者サービスの向上やその収益を公益目的事業に充てることを目的とする事業

・7 ミュージアムショップの運営

# 平成26年度[公益事業対照表]

## 5. 大阪市立美術館

当協会公益事業等の一覧		公1										取1	他1				
		1 増収文化財の収蔵・保管等と保存研究等の分野事業		2 文化財や博物館関係資料の調査・研究		3 用事研究		4 体験活動事業		5 その他の活動事業		6 大阪市立美術館・美術館管理・活用事業					
事業報告書の事業名		(1) 増収文化財の収蔵・保管等と保存研究等の分野事業	(2) 文化財や博物館関係資料の調査・研究	(3) 用事研究	(4) 体験活動事業	(5) その他の活動事業	(6) 大阪市立美術館・美術館管理・活用事業	(7) 資料収集・保管事業	(8) 特別展示等	(9) 資料収集・保管事業	(10) 特別展示等	(11) 資料収集・保管事業	(12) 学習相談事業	(13) 公式会議・講演会等			
1. 資料の収集、保管、貸出等事業		資料の収集、保管、貸出等事業	資料の収集、保管、貸出等事業	資料の収集、保管、貸出等事業	資料の収集、保管、貸出等事業	資料の収集、保管、貸出等事業	資料の収集、保管、貸出等事業	資料の収集、保管、貸出等事業	資料の収集、保管、貸出等事業	資料の収集、保管、貸出等事業	資料の収集、保管、貸出等事業	資料の収集、保管、貸出等事業	資料の収集、保管、貸出等事業	資料の収集、保管、貸出等事業			
2. 展示事業		(1)コレクション展(常設展)	(2)「第60回企画展」	(3)「ことども展 名前にみることどもと家の絆」	(4)「うつむきのものづくりのデザイン」日本工芸見る「儀服」の伝統」展	(5)特別陳列「田万コレクションⅠ 中・近世絵画」	(6)「T改版新第1回日展」	(7)「山の神仏—吉野・熊野・高野—」展	(8)「第60回企画展」	(9)「ことども展 名前にみることどもと家の絆」	(10)「うつむきのものづくりのデザイン」日本工芸見る「儀服」の伝統」展	(11)「T改版新第1回日展」	(12)「山の神仏—吉野・熊野・高野—」展	(13)「第60回企画展」	(14)「ことども展 名前にみることどもと家の絆」		
3. 講座・研究事業		(1)研究記要の作成・公表	(2)「山の神仏」展の調査・研究	(3)「ことども展」の調査・研究	(4)「うつむきのものづくりのデザイン」展の調査・研究	(5)特別陳列「田万コレクションⅠ」展の調査・研究	(6)「二村展」の調査・研究	(7)「ウエストンコレクション 肉薺浮世絵」展の調査・研究	(8)「山の神仏」展の調査・研究	(9)「ことども展」の調査・研究	(10)「うつむきのものづくりのデザイン」展の調査・研究	(11)「T改版新第1回日展」	(12)「山の神仏—吉野・熊野・高野—」展の調査・研究	(13)「第60回企画展」	(14)「ことども展 名前にみることどもと家の絆」の調査・研究		
4. 教育・普及事業		(1)インター研修事業	(2)博物館実習	(3)記念講演会	(4)普及イベント	(5)学校・市民等との連携	(6)情報発信・広報宣伝	(7)来館者サービスの向上	(8)施設の維持管理	(9)友の会	(10)美術研究所	(11)美術館運営	(12)美術館運営	(13)美術館運営	(14)美術館運営		
5. 学校・市民等との連携		(1)小学校・中学校の巡回事業	(2)「ことども展」の巡回学習【連携】	(3)障がい者特別鑑賞会	(4)なにわの日記念コンサート	(5)なにわの日記念ジャズコンサート	(6)美術館へ行こう 絵画教室・写生会	(7)市大包括連携協定 博物館学芸員講座学芸員出講【連携】	(8)ミュージアム連続講座「大阪の津とその時代」【連携】	(9)共同キャンパス「ミュージアムワークス大阪2014」【連携】	(10)キャンパスメンバーズ【連携】	(11)「美をつくり」(美術館情報誌)の発行	(12)HPの充実、各種情報発信	(13)来館者サービスの向上	(14)施設の維持管理	(15)友の会活動への支援	(16)美術研究所の運営

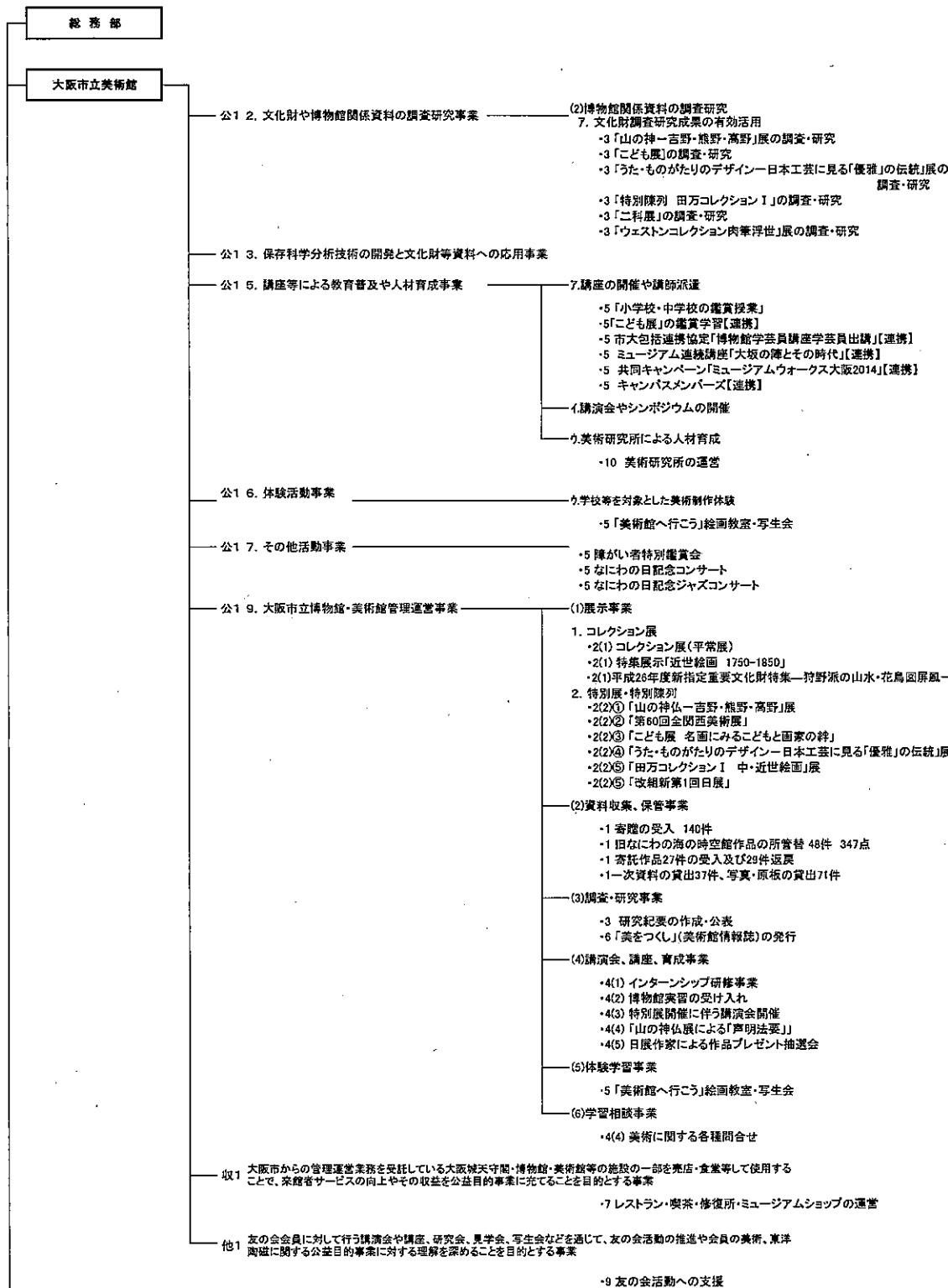
公式会議・講演会などをして行う、講演会や講座、研究会、見学会などの開催に関する事業

目的の達成

収入の確保

収益の確保

平成26年度 事業・組織体系図



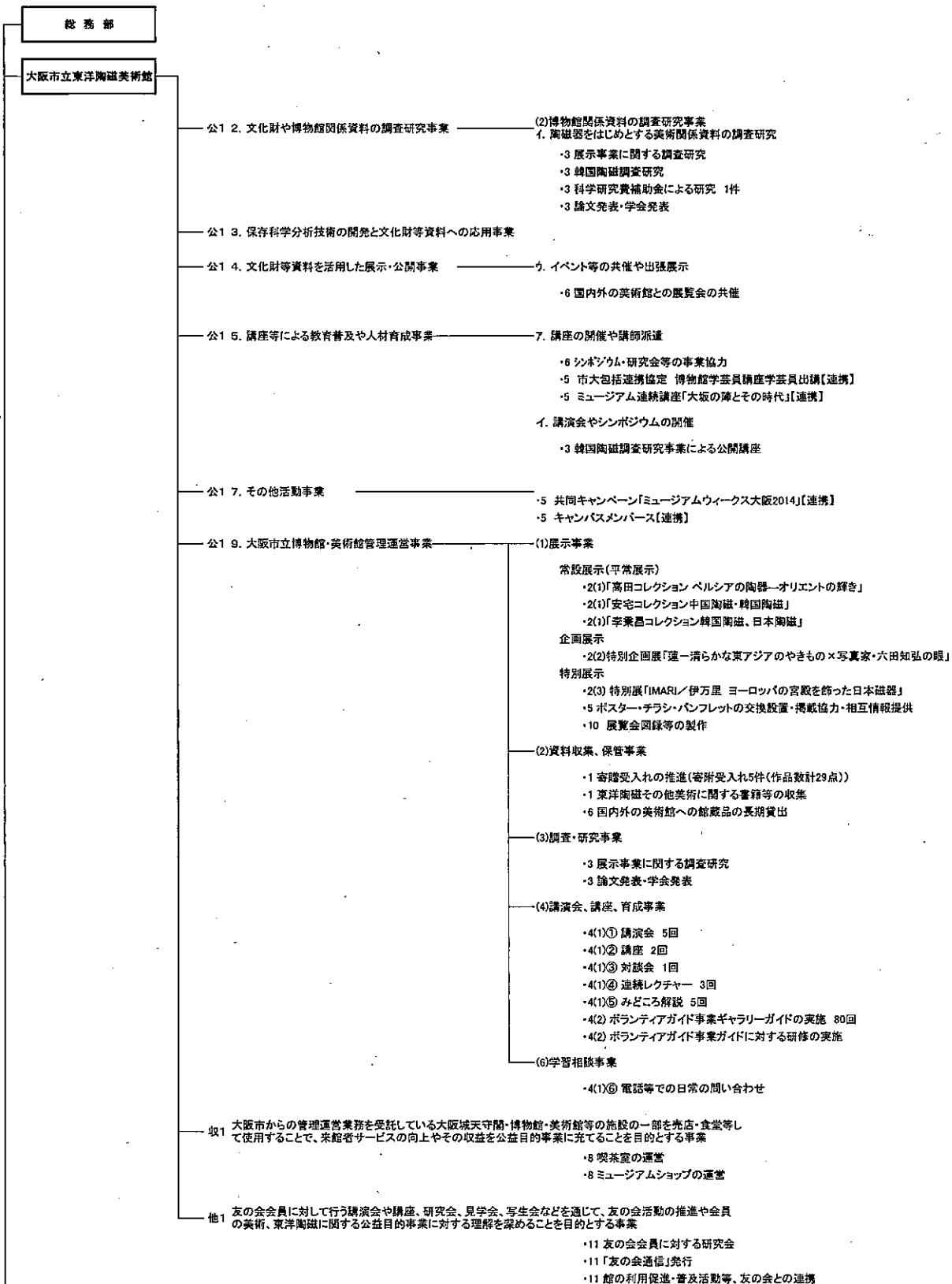
# 平成26年度[公益事業対照表]

## 6. 大阪市立東洋陶磁美術館

当協会公益事業等の一覧		公1										取1	他1
		(1) 資料の収集、保管事業	(2) 資料収集、保管事業	(3) 講習会・研究事業	(4) 講演会・講座・資料事業	(5) 体験学習事業	(6) 学習者招致事業	(7) その他の活動事業	(8) 文化財関連施設管理・活用事業	(9) 大阪市立博物館 美術館管理運営事業	(10) 特別展示等		
1. 資料の収集、保管事業	書籍受入の推進 東洋陶磁その他美術に関する書籍等の収集											○	
2. 展示事業	(1) 常設展示(平常展示) 高田コレクションペルシアの陶器—オリエントの輝き 安宅コレクション中国陶磁・韓国陶磁 李秉基コレクション韓国陶磁・日本陶磁 (2) 企画展示 特別企画展「道へ消らかな東アジアのやきもの×写真家・六田知弘の眼」 (3) 特別展 特別展「MARU伊万里 ヨーロッパの宮殿を飾った日本磁器」											○	
3. 調査研究事業	展示事業に関する調査研究 「韓国陶磁調査研究事業」による調査 「韓国陶磁調査研究事業」による公開講座 科学研究費補助金による研究 論文発表・学会発表											○	
4. 教育普及事業	(1) 講究会等の実施 ①講演会「古陶器と写真—見ることで覚えることのあいで」他、計5回 ②講座「李秉基博士記念公開講座」他、計2回 ③河原講座「道へ消らかなやきものの生きる輝きとその構成要素」 企画講座「クラークウェルの官窯を飾った日本磁器」毎月にあたって計5回 ④みどころ解説「伊万里 ヨーロッパの宮殿を飾った日本磁器」計5回 ⑤電話等での日常の問い合わせ (2) ボランティアによるガイド事業 ギャラリーガイドの実施 ガイドに対する研修の実施											○	
5. 各種団体との連携	ポスター・チラシ・パンフレットの交換設置・携帯協力・相互情報提供 市大包括連携協定 博物館学芸員講座学芸員出講【連携】 ミュージアム連続講座「大阪の陣とその時代」【連携】 共同キャンペン【ミュージアムウークス大阪2014】【連携】 キャンバスメンバー【連携】											○	
6. 他の博物館等との連携	国内外の美術館等との展示会の共催 国内外の美術館への作品の長期貸出 シンポジウム・研究会等の事業協力											○	
7. 情報発信・広報伝伝	HP・パンフレット・年鑑展示予定・ポスター・チラシ・メディアの活用による情報発信											○	
8. 来館者サービスの向上	案内サインの改善、わかりやすい解説等、来館者に配慮した環境作り 来館者アンケートの実施 喫茶室の運営 ミュージアムショップの運営											○	
9. 施設の維持管理	安全・快適な施設の維持管理 防災体制の充実											○	
10. 出版等事業	図録等の制作 研究会図録等の製作											○	
11. 友の会事業	友の会会員に対する研究会の実施 「友の会通信」の発行 館の利用促進・普及活動等、友の会との連携											○	

友の会会員に対する研究会の実施や、研究会、見学会等に対する開催等を深めるることと目的である。また、大阪市立東洋陶磁美術館の運営の目的は、本会が他の会員を通じて、本会の運営や講演会等の事業に対する理解度を深めることである。また、大阪市立東洋陶磁美術館の運営の目的は、本会が他の会員を通じて、本会の運営や講演会等の事業に対する理解度を深めることである。

平成26年度 事業・組織体系図

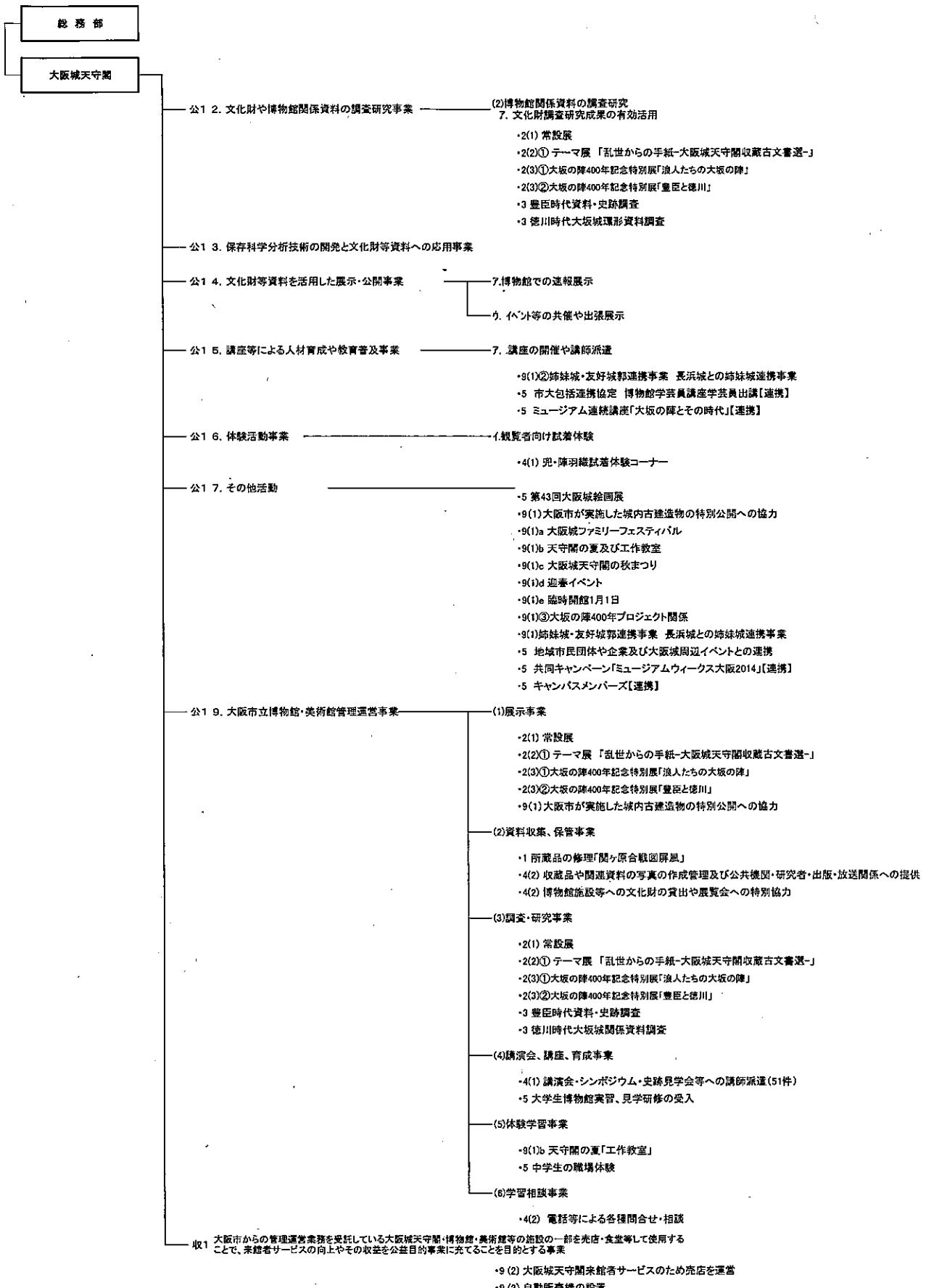


## 平成26年度[公益事業対照表]

## 7. 大阪城天守閣

当協会公益事業等の一覧		公1	公2
事業報告書の事業名			大阪城天守閣の運営 大阪城天守閣の運営 自転車発達の設置
1. 資料の収集、保管事業			(1) 資料の収集 ① 墓石時代 0点 ② 大阪城 0点 ③ 武器及び武具 0点 ④ 鷹取 0点 (2) 所蔵品の修理「関ヶ原合戦図屏風」
2. 展示事業			(1) 常設展示 ○ (2) テーマ展 ① 亂世からの手紙・大阪城天守閣収蔵古文書選一 ○ (3) 特別展 ① 「浪人たちの大坂の陣」 ○ ② 「慶臣と徳川」 ○
3. 調査研究事業			墓石時代資料・史跡調査 ○ 徳川時代大阪城関係資料調査 ○
4. 普及事業			(1) 教育普及 講演会・シンポジウム・史跡見学会等への講師派遣 ○ 児童羽織は着体験コーナー ○ (2) 資料の活用・普及 収蔵品や関連資料の写真の作成管理および公共機関・研究者・出版・放送関係への提供 ○ 博物館施設等への文化財の貸出や展示会への特別協力 ○ 電話等による各種問い合わせ・相談 ○
5. 学校・市民等との連携			大学生情報館実習、見学研修の受け入れ ○ 中学生の履修体験 ○ 大阪城天守閣 ○ 地域・市民団体や企業及び大阪城周辺イベントとの連携 ○ 市大包括連携協定 博物館学芸員講座学芸員出張【連携】 ○ ミュージアム連携講座【大阪の歴史その時代】連携 ○ 共同キャンペーン「ミュージアム・ワーカーズ大阪2014」【連携】 ○ キャンバスメンバーズ【連携】 ○
6. 情報発信・広報宣伝			HP・リーフレットを多言語で提供、HPの充実、各種情報発信 ○
7. 来館者サービスの向上			ドライブスルーブル、HP・リーフレットを多言語で提供、来館者に配慮した環境作り ○
8. 施設の維持管理			
9. 自主事業			
(1) 史跡の活用・普及事業			a 大阪城ファミリーフェスティバル ○ b 夏イベント「天守閣の夏」及び工作教室 ○ c 大阪城天守閣の秋まつり ○ d 春イベント ○ e 開館記念(1月1日) ○ 大阪城が実施した城内古跡造物内の特別公開への協力 ○ その他(大阪の歴史400年プロジェクト開催) ○ 姉妹城・友好城邦連携事業 長浜城との姉妹城連携事業 ○
(2) 大阪城天守閣売店の運営			大阪城天守閣売店の運営 ○ 大阪城天守閣売店の運営 ○ 自動販売機の設置 ○

## 平成26年度 事業・組織体系図



## 9. 処務

### (1) 処務事項

第1回理事会（決議の省略）	平成26年5月2日
第1回評議員会（決議の省略）	平成26年5月13日
第2回理事会	平成26年6月6日
第2回評議員会	平成26年6月20日
第3回理事会（決議の省略）	平成26年6月21日
第4回理事会	平成26年9月29日
第5回理事会（決議の省略）	平成27年2月20日
第6回理事会	平成27年3月18日

### (2) 理事会及び評議員会に関する事項

会議名	開催年月日	開催場所／開催方法	議題
第1回理事会	平成26年5月2日	決議の省略	<p>第1号議案 平成26年度第1回評議員会の開催について (1) 開催方法：決議の省略により開催する (2) 議題：評議員 岸本孝之氏、森和幸氏の後任評議員の選任について</p> <p>第2号議案 評議員 岸本孝之氏の辞任に伴う後任候補者として鈴持英樹氏を推薦すること</p> <p>第3号議案 評議員 森和幸氏の辞任に伴う後任候補者として中島将貴氏を推薦すること</p> <p>報告事項 評議員 栄原永遠男氏の辞任による後任者の選任は行わないこと、よって後任評議員が選任された後の評議員数は9名となり、(公財)大阪市博物館協会定款第10条(評議員の定足数)により定足数5名以上10名以内を満たしていることを報告した。</p>
第1回評議員会	平成26年5月13日	決議の省略	<p>第1号議案 評議員 岸本孝之氏の辞任に伴う後任として鈴持英樹氏を選任すること</p> <p>第2号議案 評議員 森和幸氏の辞任に伴う後任として中島将貴氏を選任すること</p> <p>報告事項 評議員 栄原永遠男氏の辞任による後任者の選任は行わないこと、よって後任評議員が選任された後の評議員数は9名となり、(公財)大阪市博物館協会定款第10条(評議員の定足数)により定足数5名以上10名以内を満たしていることを報告した。</p>
第2回理事会	平成26年6月6日	大阪歴史博物館	<p>第1号議案 平成25年度事業報告について</p> <p>第2号議案 平成25年度決算について</p> <p>第3号議案 評議員会の招集について</p> <p>報告事項1 職務執行の状況について</p>

会議名	開催年月日	開催場所／開催方法	議題
			報告事項2 指定管理期間（平成22年度～平成25年度）の総括
第2回評議員会	平成26年6月20日	大阪歴史博物館	第1号議案 平成25年度決算について 第2号議案 理事・監事の選任について 報告事項1 平成25年度事業報告について 報告事項2 指定管理期間（平成22年度～平成25年度）の総括
第3回理事会	平成26年6月21日	決議の省略	(1) 下記の者を理事長に選定し、代表理事とする。 氏名 樋川義郎 (2) 下記の者を専務理事に選定し、業務執行理事とする。 氏名 西良文
第4回理事会	平成26年9月29日	大阪歴史博物館	第1号議案 平成27年度以降の大阪市博物館協会の管理施設について 報告事項 平成26年度理事会役員体制について
第5回理事会	平成27年2月20日	決議の省略	第1号議案 資産取得資金「文化財保存センター取得資金」並びに特定費用準備資金「報告書作成公開費用等積立資金」の目的外取崩及び積立計画の中止について 第2号議案 特定費用準備資金「展示内容の充実等積立資金」の目的外取崩及び積立計画の中止について 報告事項 ・大阪城公園パークマネジメント事業者の決定について ・平成27年度以降の大阪市立美術館他3館指定管理の選定について ・指定正味財産 天守閣補修修繕積立資産の執行について
第6回理事会	平成27年3月18日	大阪歴史博物館	第1号議案 平成26年度補正予算について 第2号議案 平成27年度事業計画について 第3号議案 平成27年度予算について 報告事項 職務執行の状況について その他 平成26年度第4回臨時理事会の質疑の回答について

### (3) 理事及び監事一覧

平成27年3月31日現在

理事長	楞 川 義 郎	(公益財団法人大阪市博物館協会理事長)
専務理事	西 良 文	(公益財団法人大阪市博物館協会事務局長)
	石 垣 忍	(株式会社林原メセナセンター 林原自然科学博物館長)
	谷 直 樹	(大阪市立住まいのミュージアム館長)
	長 山 雅 一	(流通科学大学名誉教授)
	福 永 伸 哉	(大阪大学大学院文学研究科教授)
監 事	伊 藤 由之助	(税理士)
	島 村 美 樹	(弁護士)

### (4) 評議員一覧

平成27年3月31日現在

評議員	安 藤 則 男	(公認会計士)
	鋤 持 英 樹	(大阪市経済戦略局博物館改革担当部長)
	武 田 佐知子	(追手門学院大学基盤教育機構教授)
	谷 田 一 三	(大阪府立大学名誉教授)
	中 島 将 貴	(三井住友銀行総務部部長)
	松 崎 和 義	(NHK大阪放送局副局長)
	森 本 充 博	(大阪市教育委員会事務局生涯学習部長)
	山 梨 俊 夫	(国立国際美術館長)